

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割 —イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

山 崎 勇 治
(経済学部)

0. はじめに

日清戦争は今年で115年周年を迎える。

前回の論文（清国総税務司、ロバート・ハートから見た日清戦争と賠償金（1）—北京とロンドンとの往復書簡—平成7年3月、商経論集（北九州大学）、第22—3&4号）では、清国側の関税収入を支配する総税務司イギリス人ロバート・ハートが日清戦争でイギリスのためにいかなる役割を果たしてきたのかを明らかにしてきた。

本稿では、日清戦争敗北による清国の対日賠償金支払いをめぐって総税務司ロバート・ハートがイギリスのために、裏からどんな手段を取ったのかを、彼と彼の親友とが北京とロンドンの間を密かに交信していた手紙や電報を通して見ることにする。

1895年に下関の春帆楼において李鴻章と伊藤博文の間で取り決められた総額2億両（3億1000万円）に上る賠償金が決定された。その当時、賠償金支払い能力を失っていた清国は、外債（借款）を発行して外国資本によって日本に支払うことを余儀なくされた。この清国借款を引き受けることによるメリットを熟知しているイギリス、フランス、ドイツ、ロシアといった帝国主義列強は、この借款引きをめぐって熾烈な争奪戦を展開した。

本稿では、その借款争奪戦において、ロバート・ハートがイギリスのためにいかなる役割を果たしたのかについて検討することを目的とする。詳述すると、その当時、賠償金支払い能力を失っていた清国は、巨額な金額を3回に分けて支払うこととなった。後述するように、第1回目の借款争奪戦はロシア・フランス連合がイギリスを破って引き受けに成功した。第2回の借款はロバート・ハートの尽力により、イギリスが借款引き受けに成功した。第3回目の1600万ポンドという巨額の借款引き受け問題は、英露独仏最大の関心事となり、第1回と第2回の争奪戦の比ではなかった。熾烈を極めた。本稿ではこの第3次借款引き受けをめぐって帝国主義列強の暗躍のさまと、総税務司ロバート・ハートがイギリスの引き受けのために、裏からど

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

んな手段を取ったのかを、彼と彼の親友とが北京とロンドンの間を密かに交信していた手紙や電報を通して見ることにする。

ロバート・ハートは45年もの長きにわたって清国の重要な収入源である海関（=関税）を支配することができる総税務司を務めた。その間、ロンドンにも事務所を開き、同事務所で働いていた彼の親友であるダンカン（Canbell Dancan.）と秘密裏に交信し、中華人民共和国の歴史家が後になって「総税務司は関税を通じて中国の財政、金融、対外、貿易など、さらにわが国の政治まで支配していると」手厳しく批判しているように、事実上清国を支配していた。

その張本人の往復書簡を元に、新たな視野からの日清戦争の賠償金をめぐる帝国主義列強の熾烈な競争の実態の資料を提供したい。

1. ロバート・ハートの経歴

ロバート・ハートは1854年から1908年までロバート・ハートの私設ロンドン事務所動作のダンカンになんと3528通の手紙と4496通の電報を交信していた。当初、清国には郵便制度がなかった。また1869年まではスエズ運河は開通しておらず、クーリーなど私的な輸送手段に依存せざるを得なかったことを考えると気の遠くなるような話である。

彼らの手紙や電報の内容を読むと、その当時の朝鮮や清国それに日本の政治経済情勢だけでなく、アメリカやイギリス、フランス、ドイツ、ロシアの情勢を的確に分析しており、第一級の貴重な資料を我々に提供していたといえよう。

ロバート・ハートはイギリス人でありながら清国政府の総税務司という特殊な立場を45年の長きにわたっていたので、外部からはわからない清国や朝鮮の内政事情をロンドン事務所のダンカンを通じてイギリス政府に伝え、イギリス政府の外交政策に大きな影響を与えた、また清国はロバート・ハートを介して世界のの情報センターとしてのロンドンから国際情勢を入手して、清国政府の外交に大いに利用した。とくに日清戦争前後には世界情勢の正確な分析が必要なので、季鴻章はロバート・ハートを利用しようとした。また季鴻章の意図を的確にイギリス政府に伝達したのである。

ロバート・ハートの経歴はいったいどのようなものであったろうか。

アイルランド生まれのハートは大学を卒業するや、1854年にはじめて香港の貿易監督庁勤務となった。次に寧波領事館の通訳官、広東領事館の補佐言、アロー戦争時、広州の連合司令部の書記官書を務めた。59年3月には広東領事館の通訳言に復帰し、6月には新設された広東海関の副税務司となった。

63年、初代総税務司レイ（H.N.Lay）の後を引き継ぎ、1908年に至まで総税務司として北

京に赴き、海関業務の拡大のみならず、清国の行政・財政の近代化、さらに対外交渉の仲介などにおいて、重要な役割を果たした。外務省門に附置されて同文館（外国語学校）の運営にもあたり、また、1875年には北京および上海海関・鎮江海関に郵政部を付設し、総郵務司を兼任した。

75年の清英芝協定、85年の清仏戦争、95年の日清戦争賠償金問題、1900年の義和団事件などにおいて清国と列強との交渉の斡旋を行なっている。

彼は「局外傍観論」「海関金単位採用」「貨幣政改革案」を論じ、清国の統一と安定を旨とする漸進的改革論を示している。

1908年4月、1年間の休暇を与えられて帰国したが、健康状態が悪化し11年9月20日、総税務司に在席のままバッキンガムシャーのマーローで永眠した。清朝滅亡の3週間前であった。

浜下武志『日本大百科全書』、(小学館、1988年) およびStanley F.Wright, "Hart and Chinese Customs", W.M Mullan & Son LTD, 1950, pp.159~177.

2. ジェイムス・ダンカン・カンベルの略歴

ロバート・ハートのロンドン事務所で働いて40年の長期にわたって彼を助け、ロバート・ハートの分身となって欧米外交をしたのはジェイムス・ダンカン・カンベル（James Duncan Campbell）であった。

ダンカンは1833年にエディンバラで生まれた。彼はイングランドのチェルティンハム・カレッジ（Cheltenham College）を卒業し、パリに行き、最後はドイツのハイデルベルグ大学を卒業した。

卒業後は6ヶ月間ほど英国郵政省に勤務した。そして初代清国総税務司レイが1862年に清国に関税制度を創設し、それに参加するまでは英国の大蔵省に勤務していた。

ダンカンは清国に4年しか住んでいない。ダンカンがイギリスに帰国する際に、ロバート・ハートは彼に、上海にある英国最高裁判所の判決に反対していることを英国枢密院でアピールしてくれるように依頼している（The I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart, Chinese Maritime Customs, 1868-1907.4, January, 1869）。ダンカンがこの事件を巧みに処理してくれとおかげで、ロバート・ハートは勝利できた。その後、ダンカンは再び北京で総税務司の首席秘書になることを真剣に考えた。しかしさまざまな問題がのちになって発生したので、ダンカンはついに北京行きを断念した。熟慮の末、ロバート・ハートはロンドンに彼の事務所を開設する決意をした。

ロバート・ハートは1873年8月31日のダンカン宛ての手紙で、清国関税ロンドン事務所

で特別秘書として働いてくれるように要請している、(The I.G.IN PEKING、63、[121] August1873)。結局ダンカンには1873年に清国関税ロンドン事務所の非居住秘書を受け入れ、就任した。

それ以来1907年までの35年間、ダンカンはヨーロッパでのロバート・ハートの分身として活躍するのである。(The I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart,Chinese Maritime Custmos,1868-1907.4,January,1869)。彼らはイギリス政府の実質的なスパイであったのである。

3. ロバート・ハートとダンカンとの往復書簡の運命

ロバート・ハートとダンカンとの往復書簡であるThe I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart,Chinese Maritime Custmos,1868-1907は、ダンカンと、ハートとの8000通にもおよぶ手紙や電報によって構成されている。

ところで原本は現在はロンドン大学オリエンタル・アフリカ研究学部で見ることができると言われているが、ダンカンがロバート・ハート宛てに出した手紙や電報は所在が不明である。いったいどこにあるのであろうか。ロバート・ハートの北京の家が1900年の義和団事件に巻き込まれて火災に会った際に原本の手書きの手紙は焼失してしまったようだ。幸いにもダンカンは彼の差し出した手紙をすべて複製していたのでThe I.G.IN PEKINGに掲載されているといわれているが、実際にはThe I.G.IN PEKINGにはない。

ところが、さらに不恐議なことにダンカンのロバート・ハート宛てた手紙は実は中国語に翻訳されて、中国近経済史資料創刊編集委員会が1957年—65年にかけて順次編成、発行した『中国近代史経済史資料集シリーズ』や、「中国海関密檔、VOL1&VOL2 (季丹慧編、中華書局出版、1990年6月)の中に見ることができるのである。

第二次大戦後、毛沢東政権は台湾に流失した複製本とは別の複製本を入手したようである。人手行路は不明であるが、『中国海関与中日戦争』の前書きによると、この複製本は中国税関の秘密資料室の中に厳重に保管してあり、公開されていなかったが、中華人民共和国の成立以降に、中国人民政府の手に入ったという。

1957年から1965年にかけて毛沢東政権は、10年計画でこれらの文献を整理して、中国語に翻訳して出版しようとした。すなわち「中国近代史経済史資料集シリーズ編集委員会」を発足させ、ロバート・ハートとダンカンとの往復書簡を10編に分類して発刊しようとした。ところが、文化大革命が起こり、編集責任者たちは批判されて、この作業は約20年間もの長き間、中止せざるを得なかった。文化大革命が一段落した1983年、この作業が再開されたのである。

さて、ここでは『中国海関与英独続借款』を主にして、The I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart, Chinese Maritime Custmos, 1868-1907. を副として翻訳をすることにした。なぜならば、前述したように英文の資料にはロバート・ハートの手紙や電報だけが掲載されており、ダンカンの手紙手紙が掲載されていないからである。われわれは、北京とロンドンとの交信を知りたいからである。

ただし『中国海関与英独続借款』は、ロバート・ハートの手紙の内容が縮小されているので、The I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart, "Chinese Maritime Custmos, 1868-1907" VOL.TWO を絶えずチェックし、両文献を比較検討することにした。

具体的には『中国海関与英独続借款』を、The I.G.IN PEKING Letter of Robert Hart, Chinese "Maritime Custmos, 1868-1907の" 105, Z/618 (1896年4月12日) から1139, Z/825 (1899年4月30日)" と突き付わせて翻訳の作業を行なった。

4. 清国外債の引受をめぐるイギリスとロシアの競争のなかでロバート・ハートが果たした役割

前述したように、清国政府は賠償金があまりにも巨額であるので一括して日本政府に支払いができなかった。そこで清国政府は日本政府との交渉によって、3回分割が認められた。3回にわたる支払いは以下のように遂行された。

① 第1回の賠償金支払いと、ロシア・フランスによる清国外債の引き受け

日清講和条約である下関条約の批准書交換後六カ月以内に清国は日本に対して第1回目の賠償金を支払わなければならなかった。そして、その支払い能力のなかった清国は、外国からの借款に依存せざるをえなかった。清国への植民地的な進出を目指していたイギリス、ロシア、ドイツ、フランスは、この清国外債の引受をめぐる激しい競争を展開したのであった。その過程でまず、ロシアを除く三列強は、競争をやめて三分の一ずつこの外債を引き受けることとした。

けれども、遼東半島を清国に返還させる三国干渉でイニシアティブを握ったロシアは、単独では資金力不足のゆえにフランスを取り込んで2国の共同借款という形で、1895年7月6日、年利4パーセント、期間36年という条件の4億フランの借款を引き受けることに成功したのである。この借款については、ロシア政府みずからが清国政府の支払い保証をしたのであった。ロシアは、この引受を契機として鉄道敷設権、鉱山採掘権、旅順・大連の租借権を手に入れて極東での勢力を拡大していった (Conos, Arthur Gardiner, The Foreign Public Debt of China, Oxford University Press, 1930, pp.6-8)。

② 第2回目の賠償金支払いとロバート・ハートの活躍によるイギリス・ドイツによる清国外債の引き受け

1896年3月になされることになっていた日本への第2回目の賠償金である9300万両=1600万ポンドの支払いのために発行された外債については、イギリスがドイツを味方に引き入れて、1896年3月7日、この2国で折半して引き受けられることになった。引受の金融業者は、香港・上海銀行とドイツ・アジア銀行であった。

この引受について、イギリス公使と協力して清国政府に圧力を加えたのは、この政府の海関総税務司に登用されていたロバート・ハート (Robert hart) という人物であった。

③ 3回目の賠償金支払いと清国外債の引受をめぐるイギリスとロシアの競争

1600万ポンドという第三回目の賠償金の支払い期日は、1898年春であったが、この支払いの達成は、威海衛占領軍の撤退を実現するという重要な意味をもつものであった。そして、この支払いのため発行されることになった清国の外債をめぐる、イギリスとロシアとは激しく争ったのであった。その様相について、この借款をめぐるロンドンと北京との間で交わされた電文を収録した中国近代経済史資料叢編之五『中国海関与。英徳統借款』(中華書局、1983年)を中心に見てみよう。

5. R・ハートと駐ロンドン事務所税務士ダンカンとの往復書簡

ロバート・ハートが北京からジェームズ・ダンカンに手紙や電報を送ることを「No手紙行き」「No電報行き」という。ジェームズ・ダンカンがロンドンからロバート・ハートに手紙や電報を送ることを「No手紙来」「No電報来」という。

(ハートが北京より送りだした書簡・電信は、すべて去函或いは去電第X号、ダンカンがロンドンより送りだした書簡・電信はすべて来函或いは来函X号とする)

(1) 1896年4月12日北京発書簡Z字第704号

五厘英徳借款はついに四分の一までに上昇し、私は当初我々が要求した95という正味の数量或いは96という数量さえも難なく入手ものだと思う。

私はここに電報を打って貴方に指示する。総理衙門 (=清時代後期、外交や洋務を管轄するために設立された官庁) の預金60ポンド (編集注、これは清政府の1895年の300万ポンドの借款の中でまだ動かされていない部分であり、ハートがロンドン香港上海銀行に預金しているも

のである)を五厘債権に投資し、香港上海銀行で分割払いと振替の手続きを行うよう宜しく申し上げる。

(2) 1896年4月24日ロンドン発書簡Z字第997号

貴方の方法に従って事を進め、この度の英徳借款を成功させましたことは、確かに優れた功績であります。パリにしろベルリンにしろ、彼らはこの借款のことを喜ばしく思っていない。香港上海銀行のKochは私に(彼は信頼できる二カ所の情報源から聞いたことだが)ロシアの財務大臣は、この度の借款はすこぶるまずいことであり、なぜならその借款には税関の担保だけで、他に何もなければと云ったそうです。

(3) 1896年5月17日北京発書簡Z字第708号

中国は必ずより多額の金額を借りる。おそらく1000万から1600万は必要であろう。私はその借款に何をもち担保とするか知らない。それは大きな問題である。関税は最多でも1600万リールしか提供することができないし、それは一年間の税収の五分の四になる。債権人も全部を担保とすることを承知しようとしなさい、よくて八割か九割位である。だから、我々の貸付の能力もほぼ限界に来ている。これはきわめて深刻な問題で、我々は慎重に検討、商談を進めている所である。昨日総理衙門が私に内地の阿片の生産について管理する責任を任せてくれる可能性もある。私は思うにフランスとロシアは今まさに中国の内地の税収をコントロールしようと企てている。交換条件は中国はそれからの金銭的なことに対して難儀することが全くなくなるといふことだ。もし中国がこの餌に食いついたら、次には併合されてしまう。私はもしも二十才若かったらとつくづく思う。私は今老いて盛んな時期はすでに過ぎ去った。しかも仕事に対して重い責任を感じている。だが、内外の要求が彼らをまた私に彼らに替わって仕事をするように促す。もしこの時期に引退することは、惜しいことだ。

(4) 1896年5月29日ロンドン発書簡Z字1003号

近日ロシア政府がフランス政府に対して圧力をかけて、フランスの銀行に中国の鉄道借款を掌握するよう、或いは800万ポンドを用いて中国政府から鉄道租讓権を買い取るように要求している風説が伝わってきています。香港上海銀行の総裁であるCameronは昨日香港上海銀行の代理人に電報を打ち、彼らに調査、報告させ、今日彼は電報で彼らにこのことを貴方に通知するよう指示しました。このことについてもし続報がありましたら、また電報にて報告します。

(5) 1896年5月31日北京発書簡Z字第710号

Hillierの後任、香港上海銀行の総裁であるBruceの、ロンドンからの電報が私に届き、鉄道の利権とフランスの800万ポンドの借款に言及しているが、これはかなり可能性の高いものである。なぜなら、中国人はロシアやフランス人の提示したいかなる建議に対してもその通りに処置しうるからだ。現在に至るまで、この両国は中国にとって難儀する相手ではなかったが、中国は彼らの手中にあり、ただ彼らの言いなりになっている。私は更なるフランスからの借款は、我々の税関に対して危険なことであると心配しているが、しかしなす術がない。また香港上海銀行に頼るのも無駄だ。彼らは今一手販売の商人の手中で支配されているから、彼ら自身の競争相手を打ち負かすことが出来ない。フランス公使Gerardは、四厘息はとても高いと感じている。フランス政府の銀行に対する制御力からすれば、もし中国が幾らかの利益を受けることを承諾すると、三厘の利息をもって借款を獲得できたとしても、私はちっともおかしいとは思わない。

(6) 1896年6月1日北京発電信Z(新)字第710号

イングランド銀行はどんな条件のもとで中国に対して別に外債を発行することができるのか。我々は総理衙門に対して比較的優越した条件を出さない限り、借款が他人(国)の手中に収まることは免れ難い。割引は小さければ小さい程良い、香港上海銀行はどの程度まで出来るか。君はイングランド銀行総裁とこっそりと会いたまえ。

(7) 1896年6月5日ロンドン発書簡Z(新)字第1004号

貴方の6月1日の第809号の電報は月曜日の午後に届きました。つぎの日に私はイングランド銀行に行き、Sanderman総裁とSmith副総裁に会って会談を行い、彼らは口を揃えて、イングランド銀行はこれまで外国政府の代行で債券を発行したことはまったくないし、今もそのようにするつもりはないとのこと。彼らは前回、中国の債券業務遂行の登録を行うことに同意したのは、彼ら自身の意思ではなく、英国政府が彼らに依託して行わせたものであり、その一件は寛大に処置したが、彼らはもう一步踏み込んで、中国政府に対して債券を発行することは出来ないと言っています。

私は彼らにこの事はイギリスの対華政策の上で政治と商務の利益に関する問題として対処すべきかどうかと訊ねました。かの副総裁は、「それならば、貴方は行き先を間違えています。貴方は外務省に行ってその事を話すべきです。政府が我々にしろと言ったならば我々はします。けれども、それは少なければ少ないほどいい」と言われました。

(8) 1896年6月10日北京発電信 Z (新) 字第808号

イングランド銀行は私に対して確実に返答をくれないものだろうか。イギリス大使館はすでに同様に外務省に電報を打った。

(9) 1896年6月11日ロンドン発電信 Z (新) 字第676号

イングランド銀行総裁は、英国政府が直接出向かない限り、考慮したくはありませんと言うであります。私は非公式に外務省を訊ねたらどうでしょうか。

(10) 1896年6月12日北京発電信 Z (新) 字第806号

暫時、英国外務省へ問い合わせる必要はない。

(11) 1896年6月14日北京発書簡 Z (新) 字第712号

最近彼らはまた私に内地が生産できるアヘンの徴税の仕事を受けるよう要請して来て、私もそれに同意した。しかし、これは安易に決定した事ではない。なぜならこの事は我々の仕事を全中国に発展拡大させてくれるであろうから、各地の官吏と民衆は歓迎しないし、効率よく正規の軌道に乗るのに何年か過ぎなければならない。まさに私が以前も言ったように、私がもしもう20才若かったら、きっと一切の事を上手く処置できたに違いない。私が過去してきた仕事は全て税関をしっかりと地に足をつけさせるためであり、その上いかなる機会も逃さずに税関の礎を拡張させ、それによりその安定を保証させるためだ。

イングランド銀行は確かに極めて厳格で頑固な人たちが運営しているが、彼らも香港上海銀行の一般の連中と同じように粗忽だ。私はあの電報で彼らに公債の発行など頼んではないただ。彼らに五厘利息で借款を行うとしたら、イングランド銀行はどのくらい割引をもってすれば処理できるか説明してほしかっただけだ。割引は小さくそして額面に近づかなくては行けない。これは、競争が熾烈になる重要なポイントでイギリスが借款を取れるために必要な参考資料であるのに、彼らは結局「我々は外国国債を発行することは出来ない」と返答してきた。私は君もこの電報の意味を理解していないのではないかと思う。私は彼らにやれとは言っていない。ただどのようにすれば妥当なのか知りたかっただけだ。

(12) 1896年7月26日北京発書簡 Z (新) 字第718号

香港上海銀行が592,000ポンド余り買ったことを私は大変いぶかしく思う。君が5月20日に送ってきた電信で、その日までにすでに454,000ポンド買ったと言って、その後電報が来なかったから、私はもうこの購買を停止させたかと思った。当然君は命令を受けて買ったのだから、

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

君を責めているのではない。ここでの方法は可哀相でもあり、可笑しくもある。戸部（財政部）は債券利息の中から十分な金額を取って、もはや壊滅状態にある金庫を建て直そうとしている。しかし、その後また慌てだした。着工してから、債券資本金が別途に移行されて使用されるか、或いは賠償として売り出されることをとにかく恐れたからだ。私は再三四力を尽くして、全てを攪乱しないように彼らにそれほど売り急がぬよう阻止した。君も覚えておくと良い、銀行は半年の利息が入った後から、売出しを始めてもよいことになっている。しかし決して原価以下の価格で手放すことはないということを。

(13) 1896年8月12日北京発電信Z（新）字第800号

香港上海銀行は何時残りの600万ポンドの債券を発行することができるのか。総理衙門は多分9月分の利息の後で、所持している60万の債券を売り払おうとしている。ただ金儲けの準備はしているが、元値を割ることを嫌がり、市場に影響を与えることも嫌がっている。香港上海銀行に対してどのように売り払うのが適当か商談してほしい。

(14) 1896年8月13日ロンドン発電信Z（新）字667号

800号の電報の債券はおよそ9月に発行されるでしょう。

(15) 1896年8月14日ロンドン発書簡Z（新）字第1015号

Cameronは今スコットランドにいます。しかしNobleは私に英徳借款の残した600万ポンドは9月の始めに続けて発行すると教えてくれました。60万ポンドの債券は段々と売却していくしかないのですが私はCameronが帰って来て商談した後に又貴方に報告します。

(16) 1896年9月11日ロンドン発書簡Z字第1021号

明日に発行される五厘借款の債権の端数は600万であり、いま、二枚の発行書を送ります。発行価は99ではありますが、思いがけず昨日イングランド銀行が割引き率を二分の1%引き上げて、市場価格が軒並み下がりました。五厘借款の債券は現在101½であり、もし期限が10月の利息札を差し引くと、99にしかありません。よって恐らく発行した債券も下がるでしょう。聞くところによりますと、ドイツはすでに借款に対して倦怠になっている様子で、彼らは李鴻章からなんら注文を取ることもできなかったのも、とても遺憾に感じ、中国借款への興味も削がれて低減したそうです。市場価格を維持するという見地から、シンジケートは市場で買い入れるしかありません。以上すべてが、目下の市場状況は良くないことを示しております。（これにより、銀行が592,000万ポンドの債券を原価通り或いは原価より少し高めに売りに出すの

には、まだ少し待たなくてはなりません。貴方の売却の指示は暫くの間私とCameronの二人だけで厳重に秘密にしておきます。)

(17) 1896年9月12日ロンドン発電信Z(新)字第658号

Detringは8月28日に税関制度を真似て中国鉄道の管理計画を携えて帰国しました。

(18) 1896年9月19日ロンドン発書簡Z字第1023号

今日私はCameronに会いました。彼は香港上海銀行駐のハンブルグの代理人から9月17日に来た手紙を見せてくれました。手紙ではドイツのシンジケートが電報で報告されていて、一日目の購入申し込み総数は100万ポンドであったが、その後の電報で報告してきた数字はとも高かった。昨日ドイツ方面がロンドンの購入申し込み総数が150万ポンドであったと聞きつけると、また電報でドイツの購入申し込み総数は170万ポンドだと、報告してきました。香港上海銀行の代理人は本当にそれほど多く購入したかどうか疑っています。Cameronは事実上ドイツの大衆は新債券に対して少しも興味を示していないので、ドイツのシンジケートは自分で新債券と旧債券の大部分を引き受ける他ありません。このように彼らは以降ドイツのシンジケートが全部で18の銀行を含んでいる。彼ら自身が一手販売の商人でありドイツの制度はイギリスとは違うものの、結果は同じです。

(19) 1896年11月6日北京発電信(新)字第775号

香港上海銀行に対して、いかなる鉄道建設の財政計画も、中国政府の正式の批准及び担保の付随を経っていないものは、全て立替えて支払ってはならないと伝えてほしい。

(20) 1896年11月6日ロンドン発書簡Z字第1031号

貴方からの第775号の電報で受け取ったのち、私は一通の手紙を用意し、貴方の電報と共に直ちにCameronに送りました。私は貴方が所謂鉄道計画に警告を出したのは極めて適切であると思います。CameronはこれがDetringに対する一つの警告だということを理解しています。彼の話からDetringが最近彼と手紙のやり取りがあった事が察せられます。もっと多くの情報が入手できたら、また報告します。

(21) 1896年11月13日ロンドン発書簡Z字第1032号

11月7日(土曜日)に私はCameronに会いました。彼は私にDetringからの一通の密書を受け取ったと言いました。密書には銀行の条件を承諾し、つまり鉄道に関するいかなる計画

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

も、すべて事前に貴方の批准を得て、それから銀行が財務上の手助けをすることを承諾をしました。Cameronは同時にDetringが中国に帰る前に彼と商談して意見を聞いておくのは、よい策略だと示しております。なぜならもし、今すぐ彼の計画に水を差すと、彼が他の金融団体と接触して、その人達はきっと諸手を上げて歓迎するでしょうし、中国と総税務司の利益などは考えもしないでしょう。思うにCameronとDetringとの談判はすでに勝手に放置できない状態にありますので、彼は10月29日にハンブルグに赴いてDetringに会いに行かざるを得ないこととなりました。Cameronが戻って来た時私にDetringから来た手紙の写しを一部くれました。Cameronは、Detringとの話で貴方の話になりますと、彼は貴方に対して忠実だという態度を示し、かつてVon Brandにドイツ外務省に対して、ドイツの貿易に関して貴方は誰よりも貢献していると指摘するよう促したとのこと、その上ドイツは貴方の功績を認めていない唯一の国家であると言っていました。DetringはCameronに対して、ドイツ皇帝が以前単独で彼と約一時間ほど会談を行ったし、それ以外にも、Spring Riceとイギリス駐ドイツ大使Sir Frank Lascellsらと会談を行ったことがあり、会談の中で彼は率直に自分の観点を説明したとのことでした。

8月28日に私が彼を送った時に私に言ったので、Detringはきっと貴方に手紙を出して報告すると思います。11月6日に私は彼からの手紙を受け取り、直ぐに第637号の電報で報告しました通りです。手紙の内容は以下の通りです。

「10月17日に私は天津からの電報を受け取り、李鴻章はその日に北京に到着しました。以前に彼らは北京で鉄道銀行の設立を計画していたが、この事は李鴻章が北京に帰京し、皇帝に謁見した後で決定することになります。彼らは私に直ちに帰還し、電報で出発の日程を知らせるよう要請して来ました。盛道台はすでに命令を受け漢陽鉄工場の頭取に任命されていました。私は大胆に彼がああ麻痺した機関をもっと活躍出来るような道を歩ませることができると言いました。彼は或いは直隸総督の職に戻るかもしれませんが、でなければ、来週に引退するでしょう。私がドイツ外務省との初めての談判の中で、まだ克服しなくてはならない極めて大きな困難があり、周到かつ慎重そして辛抱強くやっていくという方法でしか皇帝の意志を勝ち得ることができないと言っていました。これ以外は中国は各国に対して輸入税法を修正するよう要請しております。イギリスはまだ意志も行動も示していないので、ドイツの外務省も彼らがいま取っている「待ってみよう」という原則姿勢を崩すつもりはありません。中国は別途に公使をロンドンに送り龔照璠を引き継がせようとしていますが、「高昇」汽船の問題を解決する以前なので、談判もなんら進展もないと思います。私はすでに中国に帰ることに決めました。中国で力を尽くせる所はここよりも沢山あります。私は来週ベルリンを離れる予定です。11月15日ナポリを出発して中国に帰ります。」

(22) 1896年11月14日ロンドン発書簡Z字第1033号

今朝Cameronが私に、彼はDetringから今月12日の日付で届いた手紙で、Detringはドイツの外務大臣であるBaron MarshallとSpring RiceとSir Frank Lascellsと会談し満足のいく結果を得られたとの事です。Baron Marshallの話によりますとSpring RiceとSir Frank Lascellsの間ではすでに手紙のやり取りがあり、イギリス外務省は鉄道の件について称賛しています。今日の午後CameronはBertieに会いに行くそうで、そうすれば実際どのようなことになっているか判明するはずです。彼はまたG.CurzonとJoseph Chamberlianの両人はClaude MacDonalに書簡を送り、A.R.Colqhounを推薦していると私に告げてくれました。

(23) 1896年11月15日北京発書簡Z字第732号

我々の前には依然として一つの未知の前途が置かれている。私は財政上の全滅を危惧している。なぜなら日本に賠償支払いするための借款は別の出費に使ってしまったのだから、中国はこれ以上どうやって借りられるのだろうか。少なく見ても1,500万ポンドが必要である。だが、私はまた露、仏のシンジケートが借款を承諾することを恐れている。そうなってしまったら、中国はもはや完全にこの二カ国の手中に落ちてしまう。一部の中国の高級官僚はこの勢局を知っている。私からすれば、やはりこれを機に「水を濁して魚を捕ろう」としているようだ。昨日かなり高い地位にある二人の大物が、私に彼らのためにマカオで家を探してきてくれと頼んできた。彼らは「北京から遠ければ遠いほどいい」と言っていた。私は何度も彼らに無駄金を使って軍艦などを購入しないよう勧めているのだが、なんの効果もない。目下彼らはまた盛宣懐に100万ポンドを渡して鉄道を建設しようと建議してきた。Detringと盛とは一緒にグルになっているのではないか。それとも外国の大使館の支持を利用して李鴻章が表に出て責任を負わせないようにするのもまた問題だ。彼がどの方向で手を下すにしろ、私はどれにも反対はしないし、彼になんらかの援助をしてもよい。もし成功したら、それはそれで当然中国にとっていいことであり、もし失敗しても、それはそれで彼にとっていい教訓になるだろう。

(24) 1896年11月20日ロンドン発書簡Z字第1034号

Cameronは先週の土曜日にDetringに会いました。イギリス外務省がイギリス駐徳大使の所からDetringの鉄道計画を知りました。しかしCameronが私にした話からすると、Bertieは別にこの計画に賛同の意を示していないようです。

イギリス下院議員のPritchard Morganが李鴻章の早急な電報の要請をうけて、彼の娘を連れて郵便船に乗って中国に行き、鉱山鉄道などの権利に関する相談をするようです。彼はこの目的のために李鴻章とバンクーバから日本の横浜まで同行し、話によると李鴻章は全権を

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

彼に委任したそうです。私にこの話をしてくれた人によると、MorganはG.CurzonとJoseph Chamberlianの紹介状を持参しており、R.C.Salisburyはまた電報でMacDonalにMorganへ最有力の支持を与えるように命令したそうです。私はあまりこのことを信じていません。ここ何日かの内に私は或いはもっと多くの情報を聞けるかもしれません。

(25) 1896年11月29日北京発書簡Z字第734号

総理衙門は私の警告を抗議と顧みず、よく日本に賠償するための借款を他の用途に使用している。おそらく間もなく大きな財政恐慌が発生すると思う。ロシアがもしかすると、中国に金を貸して救ってやるかもしれない。そうすると、中国はより一層ロシアの足かせによって束縛されるようになる。今はまさに英国政府が脚を踏み入れる絶好の機会だと思う。この種の投資は極めて安全である。なぜなら中国はこれまでずっと信用を守って来だし、背景となる巨大な資源を持っているからだ。

(26) 1896年12月1日ロンドン発書簡新字第623号

密、英国首相はすでに英国公使にMorganが鉄道鉱山の利権取得に関する活動を支持するよう命令を出しました。彼は李鴻章と「中国皇后」号に乗り込み、今、李の（電報での）招待により中国に赴いています。カナダから出発して、鉱山技師を連れて、おそらく12月26日頃上海に到着し。盛宣懐と商談する予定です。A.R.ColqhounはG.CurzonとJoseph Chamberlianの紹介状を持参して中国に赴いております。

(27) 1896年12月20日北京発書簡Z字第736号

送られてきた第631号電報の中で話した24日以前に100万ポンド支払うとの事、この借款の用途は秘密である。中国政府は盛宣懐に預けて鉄道事業を興すと言う人もいれば、これは中国が露清銀行の株に投入すると言う人もいる。私は総理衙門に対して、日本に対する賠償金のために借款したものを他の用途に動かすべきではないと抗議したが、彼らはもう金が手に入ったので約束を守ろうとはしなくなった。

(28) 1896年12月25日ロンドン発書簡Z字第1039号

私は第2574号の提出文書に、香港上海銀行の5パーセント借款に関する勘定書を同封しました。Cameronはこのように短期内に上海から100万ポンドが支払われることは、香港上海銀行の大きな功績であるとしています。彼は更に、もしこの仕事を他の銀行がしても成功しなかったであろうと言いました。Cameronによりますと、露清銀行はすでに中国政府と契約を一つ

交わしており、上海道台から同銀行に500万リールが支払われたのは、中国鉄道の費用或いは盛道台に支払うためであるようです。

(29) 1897年3月28日北京発書簡Z字第747号

何日前、戸部（＝大蔵省）の二人が皇帝に尚書を奉り、内地生産のアヘンの管理を私に任せようとしている。私は計画を起草している所だ。恐らく厘金、塩税そして田賦までも同じように私に任せるであろう。だが、どうして私に全部できようか。

(30) 1897年4月4日北京発書簡Z字第748号

今また借款の商談が盛んになっている。李鴻章は急いで執り行いたいようだ。だがしかし「金」には「保証」が必要だ。中国は非常に不本意であるが、ついに保証を提供することに同意した。内地の税収を制御するのは難しい仕事だ。もし私に任せるといふのなら、今の仕事はかなり重いとしても、私は辞退することはできない。なぜなら私であれば、以前と同じく中国の機関の一つがする仕事であるからだ。逆に別の機構をつくれれば、例えば露、仏が塩税を管理するようになると、それは一つの純粋な外国の機関であり、中国政権の影響におよばないものとなる。

(31) 1897年5月14日ロンドン発書簡Z字第1061号

昨日の夕刊にロイター社の北京発の消息によりますと、金額1,600万ポンドの新借款を発行する大まかな契約は既にイギリス・シンジケートの代表が北京にて調印されたと掲載されました。この人達は訳が分かりません。香港上海銀行の北京の代理人は必ずCameronのところから得たニュースを全てあなたにお知らせすることと思います。

(32) 1897年6月6日北京発書簡Z字第1061号

借款問題に関して、中国は間もなく進退窮まる境地に陥ろうとしている。私はそれには手を出さない。自ら策をこうじるより彼らが助けを求めに来た時に意見した方がずっと（影響）力があるからだ。張蔭桓は、差し押さえられていない関税収入は、実数より200万リールほど多いと計算している。財政上から言って、この種の関税余金自身がいい担保ではないかと思う。

(33) 1897年7月4日北京発書簡Z字第758号

戸部は私を見習って、少しは知恵が付いたようで、各省に内地産のアヘンを徴収させ、私にはやらせてくれなくなった。戸部は各省に対して直ちに、33万箱として毎年2,000万リールを

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

徴収するようにした。私は過去に30年でやっこの数字目標に達するだろうと彼らに言ったことがある。私の計画も当然ダメになった。彼らの実験も失敗に終わるだろう。李鴻章は必死に借款のことを画策しているが、こちらあまり順調ではない。張蔭桓はもとより増税問題について談判するつもりだったようだが、君からの電報で今月の31日に彼は中国に帰ってくるようだが、増税問題も談判にならないだろう。事実上、戸部は上奏書の中で、アヘン生産によってかなりの徴税が期待できるので、関税を増やす必要はないと述べていた。私からすれば、彼らは楽観し過ぎている。

(34) 1897年7月18日北京発書簡Z字第759号

今日 Cassini がすでに張蔭桓に会いロシア皇帝も彼の謁見を受け、中国が財政難を乗りきる為手助けし、借款を行う等々を承知したと聞いた。イギリスはこの様なひたすらロシアに打ち克つ唯一の方法はイングランド銀行が三厘の利息で中国借款をイギリスの担保で実施することだと勧めたのだ。見たところ、我々の政府は中国をこれほど重視しこんなやり方を許すようなものではない。だが、このようにしなければ、中国はますますロシアの罠に陥ることになり、長らく逃れることができなくなってしまうだろう。

(35) 1897年7月25日北京発書簡Z字第761号

聞くとところによると、盛宣懷はすでにベルギーの投資会社と正式に契約を結んで、目下の問題は誰が大借款を引き受けるかが問題だそうだ。見た所、ロシアの財政大臣 (Count de Wittet) が張蔭桓にあまり急がなくてもいいと告げたそうだ。ロシアはフランス、ドイツ両国と商談して、中国が必要とする金額の借款を提供しようとしている。もしフランスドイツとうまくいかなくとも、イギリスと商談することも出来る。もし、イギリスの貸付人が冷淡に傍観するのなら、ロシアはきっと借款を成功させることは出来ないであろう。

(36) 1897年8月15日北京発書簡Z字第764号

李鴻章はまだ無秩序に借款の調達をしようとしている。今は盛宣懷に引き継がせて、盛宣懷のオファーは五厘息、5パーセントの割引であり、黒幕はHooleyだと言っている。思うにまた失敗するだろう。CameronとPanmure Gordonの一派はまた中国への信用を損じたと騒ぐであろう。目下最も宜しくないのは為替相場問題で、1リールの銀は1シリング5ペンスにしかならない。銀行は1シリング6ペンスにまで下げようと言っている。実に考えられないことだ。我々はどうしたらいいのか。中国はどうやってポンド立ての借款を返すのだ。今の為替相場に照らして言うと、中国は去年100万リールを調達し返済したものを、現在は125万リールに

なってしまう。先行きが不安だ。聞くところによると、上海の半分が破産するしかないといった崖縁にあるそうだ。

(37) 1897年8月17日ロンドン発電信新字第597号

Detringは某日本高級官吏と面会した後、彼は、もし中国政府が委任した外国人が日本に対して商談すれば、日本は或いは賠償金の残額を7年もしくは10年内の分割払いに応じてくれるかもしれないと考えています。また李鴻章が日本に行ったときあなたが羅豊祿公使に教えた方法に倣って処理しようと彼は考えています。

(38) 1897年8月19日北京発電信新字744号

Holley-Jamieson Syndicateは順調に1,600万ポンドの債券を発行することができるのか。Morganと彼らは関係をもっているかどうか、調査し随時電報にて知らせよ。

(39) 1897年8月19日ロンドン発電信新字596号

噂によりますと、この会社は400万ポンドの鉄道借款を調達するためのみに設立された会社であり、大部分はW.Pearsonが出資しており、これ以外に財力は持っていません。Holleyのロンドン金融界での信用は惨々たるものでした。仲買人は誰も彼を信用しようとしません。彼の資本は全て帳簿の上のものです。Jamiesonは貧乏な議員で、これまで手段を選ばずやってきています。彼らが契約を結んだ後は、絶対に自力で債券を発行することは出来ませんし、信頼の置けないものです。Morganと彼らの間には関係がありません。

(40) 1897年8月21日ロンドン発書簡Z字第1077号

今月17日、私は香港上海銀行でNobleとPanmure Gordonの共同経営者Hillを見かけました。彼らは私にHolley-Jamieson Syndicateの真相をあなたに報告するようにと、建議してきました。私はあなたがこの新たな借款問題には参与していないので、彼らの知っている状況を、北京の香港上海銀行の代理人からあなたに知らせるべきだと言いました。Nobleは、ロンドンのこの会社を単に笑いの種にしているという短い電報を一通打つつもりだと言っていました。

あなたからの第744号電報を受け取った後、私はNobleに会いに行きました。彼は、少し前、Jamiesonは400万ポンドの鉄道借款の事でCameronを訪ねて来て、そのうえAshburnhamあるいはAshburtonとか言う人物とLeopold Rothschildが彼を支持していると言ったそうです。Cameronは自分はロスチャイルド家の人々と親しく、Jamiesonをロスチャイルドが支

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

持っているという話は全く信用できないものだと言っていました。Nobleは、Holleyはいくつかの投機計画の発案者で、彼のロンドンでの評判は極めて悪いと言っていました。

私はHillに会いに行こうと思っています。Hillが言うには、ロンドンで地位のある銀行家或いは仲買人はみなHolleyと関係を持ちたくないと思っている。Holleyの金は帳面の上のものではなく、ロンドンで彼を知っている人は彼に10ポンドの金さえも貸したくないそうです。Hillの会社は以前に彼らの会社と一度取引をしたことがあったが、今は二度と彼らと行き来がなくなりました。そして鉄道修理の大商人W.PearsonはHolley-Jamieson Syndicateの最大の出資人ですが、その他の人は大した出資はしていません。Jamiesonは国会議員であるがゆえに、外務省への宣伝として利用されていたのです。

Macraeは鉄道証券信託会社の支配人で、彼はロスチャイルドやロンドン金融界の首脳陣と面識があるので、私はまた彼を訪ねました。彼はCameronとHillのHooleyに関する話を実証してくれましたし、かつHooleyが二ヵ月を期限とする額面3,000ポンドの約束手形を出しても、2,000ポンドまでしか貸し出せないことを知っていました。Macraeは、Hooleyは冒険家であり、策士であり、何も顧みていなく、このような会社は永遠に中国に替わって1,600万ポンドの外債を発行することはできないとのことでした。

私はMacraeの会社はMorganに対して中国での鉱山の測量調査に資金を提供したことがあることを知っています。ゆえに私はMacraeに、Morganのこの会社に対してどのような見方をしているか尋ねました。彼は、Morganはこの会社は極めて笑止であり、中国人は幾つかのことについてはまだ明瞭であるが、ほかのことについては全く幼稚になってしまうと認識していると言いました。

(41) 1897年8月22日北京発電信新字第743号

Hooley-Jamieson Syndicateは信用の評判では宜しくないが、一番いいのは、やはり彼らにやらせることだ。彼らの失敗を通じて、彼らの中国友人に教訓を与える事が出来よう。

(42) 1897年8月22日北京発書簡Z字第765号

今月16日、張蔭桓がロシアの電報の中で話したのは借款問題であり、かつ彼は総理衙門から私に対して関税で抵当に入れることが出来る部分がどれほどあるかを調査させるべきだと言っている。こうなって来ると、李鴻章は対決せざるを得なくなる。なぜなら彼はすでに上奏書ですでにHolley-Jamieson Syndicateと1,600万ポンドの借款の契約を成立させたと言ったからである。総理衙門はまだ私に相談に来ていないが、私は李鴻章らにやらせようと思っている。成功しなければ、彼らの教訓となるだろうから。会社の代表Frasselは今日上海の弁護士Platt

と北京に来ている。見たところかなり真剣な様子で、紛争が起こるかもしれない。事が集結する前に、楽しい芝居が見れると思う。

(43) 1897年8月27日ロンドン発電信字新第592号

Jamiesonは昨日香港上海銀行で、賠償のための外債に手を出すつもりはなく、鉄道の商売だけに専念するつもりだと言っていました。

(44) 1897年8月27日ロンドン発書簡Z字第1078号

私は木曜日にMacraeに会いに行こうと思っています。彼は最近別件でGlynn Mills & Co.に行き、一人の共同経営者に会い、その経営者が偶然、中国人は今色々な所で借金を模索しているが、それは実に愚かである。彼らに対して勧告や警告を与えてやるような人は居ないのだろうかという話に及んだそうです。彼はGlynn Mills & Co.が既に対華借款の参加に同意したという噂があり、その事を羅豊祿公使に対して、この種の噂は全く根拠のないもので、羅豊祿（清末の外交官）は自分もそのように考えていると言いましたが、すぐにまた「もし、私があなた方に借金を執り行って欲しいといえ、あなた方は承知してくれましたか」と尋ねていました。あの経営者はどうしても対華借款の仕事はしたくないと言いました。Macraeは、ロンドンの金融界では一般的に類似した感情が存在していると言っていました。中国はこうした素人のでたらめな借入金で失敗した後は、信用面で多大な損害を受け、有利な条件で借金を得ることが難しくなり、しかも彙豊の手を経なければ、多分いかなる条件のもとであろうと借金ができなくなるでしょう。

MacraeはW.Pearsonとかなり親しい仲であり、彼は、W.Pearsonが自分への相談なしには、決してHooley-Jamieson Syndicateの借入金に参加しないと思っています。

(45) 1897年8月27日北京発電信新字第740号

Hooley Syndicateのことに伸展があった。両江総督は既に厘金（通過税）と塩税を抵当にして、蘇州鉄道を修築し、かつ条項を受け入れることに応じている。もし債務を支払い終わらない場合には、欧州人によって鉄道は管理されるであろう。皇帝によってその事が批准されるかどうかまだ決定は難しい。Hooley Syndicateのクリスマス前に借金を募り終わるかどうかあやふやな状態である。Hooley Syndicateは金融市場へ探りを入れた後、多分駐北京代表に契約にサインしないよう指示するだろう。財政は極端に困窮し、その前途は予想するのも難しい。Syndicateの行動は明らかに、中国使館の指示を受けている。

(46) 1897年9月3日 ロンドン発書簡Z字第1097号

8月29日の第740号電報を受け取った後、私はしかし奇異には思いませんでした。というのも、Jamiesonはもともと信用出来る人物ではありません。私はNobleに、私はJamiesonは本当に駐北京代表に対して借款を行わないことを通達したかどうか疑っていると言いました。あなたはSyndicateの行動は明らかに、中国使館の指示を受けている、と仰っていましたが、私の見解からしますと、羅豊祿はこの誰かに対して、この会社は李鴻章はそれを放り出すであろうと言ったそうです。Macraeは私に、彼は会社は既に四人の金融界の人士に接触したが、この方たちはみなもこのような投資会社を通して借款に参加したくないと話してくれました。借款はきっと失敗するでしょう。

香港上海銀行はすでにHillierに電報し、もし中国政府が借款を申請してきたならば、必ず良好で十分な担保を要求し、かつ税関によって管理するようにと告げました。

(47) 1897年9月4日 北京発電信新字第739号

Hooley Syndicateは代表を送り、両江総督と協定書に調印し、鉄道権益を取得した後に債権を発行することを承知し、今上海で盛宣懷と鉄道の件で商談している。Jamiesonは別の人物に対して、自分はこの外債を執り行いたいと話していた。

(48) 1897年9月4日 ロンドン発電信新字第590号

Jamiesonは羅豊祿の親友であり、彼らは今まで上辺だけで話をするので、ロンドン金融界の権威のある方々は彼らの言う所の借款は、実現しないと見ています。

(49) 1897年9月5日 北京発書簡Z字第766号

銀価が毎両2セント3ペンスにまで下落し、恐慌を引き起こしている。中国は去年1,500万ポンドで購入することができた金は、今までは2,000万ポンド必要になった。これにより、中国の関税収入は全て底を尽き、それでも現在ある外債に足りない。Hooley-Jamiesonだが、彼らはすでに、漢口から広州まで或いは上海までの鉄道の修理を引き受けることを借款の主要条件としており、そこから大儲けようとしている。Cameronは当然、ロンドンの金融市場は借款への参加を拒否すると考えているが、彼の見方はいつも正しいとは限らない。一部の人々は或いはこの借款の成功は良いことであると考えているかもしれない。なぜなら、もし香港上海銀行が執行するならば、ドイツの銀行は半分を要求してくるだろうけれど、Hooley-Jamieson Syndicateがやれば、いい所は全てイギリスに帰し、それに鉄道の修理という特権もついてくるのだから。Hooley-Jamieson SyndicateのFrasselは、彼がイギリスを離れる

前の何週間の内は、羅豊祿に毎日会いに行っていたそうだ。聞くところによると、Jamiesonは外務省に対して、彼らがやろうとしているのは、中国が日本に支払うために必要な外債であると言った。これは当然の芝居的一幕で、目的は香港上海銀行の視線を転移させようとしているのだ。

(50) 1897年9月12日 北京発書簡Z字第767号

Hooley 借款のことは今上海で商談を行っている最中で、もし盛宣懐が鉄道修理の特権を承知すれば、Frasselは借款の執行を承諾するでしょう。Hooley 借款が成功しなければ、露・仏両国はすでに借款を準備し、この空欄を埋めようとしている。だが、税収管理がその条件だ。そうになってしまうと、中国は一貫の終わりだ。でももしかしたら、それが中国の運命かもしれない。なぜなら中国は大きすぎるから、消滅したり、長らく分裂することは不可能だ。

(51) 1897年9月16日 北京発電信新字第738号

Hooley Syndicateは、借款はすでにロンドンにて準備を整え、後は契約に調印するのみで、中国の公使にすぐ公布できると言明している。Morganはすでに中国に帰っている。

(52) 1897年9月16日 ロンドン発電信新字第589号

その事がもし事実なら、ロンドン金融界の権威たちは当然聞きつけているでしょうが、彼らは知らないと言っています。ある人が私にMorganは新しい計画を持ちかえり、別の会社を創り、鉄道・鉱山権益を引き受けると密告して来ました。

(53) 1897年9月17日 北京発電信新字第737号

583号の電報について、Detringは新会社と関係あるか。

(54) 1897年9月17日 ロンドン発電信新字第1081号

Hooley-Jamieson Syndicateのここでの表示によると、鉄道の修理と借款とを承諾した契約は、すでに二週間前に中国から送られたとのこと。しかし香港上海銀行は今日の午後五時にやっと上海からの電報をうけとり、その内容は以下の通りです。

「盛道台はFrasselに対して、李鴻章の電報を受け取り、Hooleyの1,600万ポンドの借款条件、五息厘、5%の割引、手数料は1/100とすることを通達し、かつFrasselに直ちに北京に行き契約に調印するよう要請する。」

今日はCameronに会いに行けませんでした。明日彼や他の人の意見を聞いてみるつもりで

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

す。このような借款はすでに一手販売されているはずも、外に漏れないことを不可能である。経営者は全くのでたらめなホラ吹きだと言っています。

(55) 1897年9月19日 北京発電信新字第768号

李鴻章一派はHooleyが彼らを助けて難関を乗り越えると信じて、Hooleyの代表Frasselは当然中国人に対して、会社はきっとそのようにすると言っている。思うに彼らは最後にはやはり私を頼ってくる。ただ、最後の一分にならないと彼らは私に頼ってこないであろう。その時に、私にどんなことが出来るか、それは大きな問題だ。

(56) 1897年9月24日 ロンドン発書簡Z字第1082号

Macraeは私に、Morganはある新しい鉱務鉄道投資会社の代表として中国に帰還したと密かに教えてくれました。そのことを私は16日の新字第589号の電報で貴方にお知らせしました。Macraeはまた、投資会社はMorganは人選が不適切なので、彼らは多分中国には行かないだろうとも言っていました。彼は私に秘密を厳守するように言い、ジャーディン・マセソン商会 (Jardine, Matheson & CO.)、ベアリング商会 (Baring Co.) とPriceは全てこの新会社と関係があるとのこと。もし、Detringがこの会社と関係を持っているのなら、Macraeはきっと話に出してくるでしょう。だから、Detringと香港上海銀行およそこの事と無関係でしょう。

W.Pearsonの話によりますと、彼はいままでずっとHooley-Jamieson Syndicateと関係を持ちたくなかったと言っています。Hooleyはセント・ポール寺院への寄付金を記念するプレートを送って、貴金属店に貸しをつくってしまい、貴金属店は彼に対して告訴して、残りの金を払ってもらうように追求するつもりです。聞くところによりますと、彼を告訴した事件はあと二、三あるようです。

(57) 1897年9月26日 北京発電信新字第736号

新聞はHooley-Jamieson Syndicateのことを吹聴して、Hooley Syndicateはすでに担保金の10万ポンドを支払い、かつ合同調印の後、直ちに90万ポンドを支払い、端数はクリスマス前に払い切るつもりだそうだ。ロンドンの金融界の権威ある人士みんな節穴であるか、あるいはHooley Syndicateの方が大茶番劇であるか、間もなく白黒がはっきりするであろう。彼らが手に入る全ての利権こそが、イギリスの利益について言えば、これは重大な事なのだ。

(58) 1897年9月26日 ロンドン発電信新字第587号

ロンドン各界は依然としてHooley Syndicateは頼りにならないと認識しています。

(59) 1897年9月26日 北京発書簡Z字第769号

私は、中国が香港上海銀行から借款することを心から願っている。しかしHooleyの手を経るものにも二つほど良い事がある。というのは、そのようにすれば、香港上海銀行のように他人と共同で行う必要はなく、かつ鉄道修理の特権を獲得でき、これはイギリスにとっても大変有利であるからだ。だから、私は決してこの借款に反対は唱えない。しかし、私は手助けするつもりもない。当然私はHooleyの会社の能力を信用していない。

Morganはここに技師を一人残して行った。技師は李鴻章の推薦により、すでに盛京將軍の要請に応じて、遼東へ金鉱の調査に出かけた。

(60) 1897年9月30日 ロンドン発電信新字第586号

タイムズ紙は今日Hooley Syndicate側の借款担保に関するニュースを掲載しました。借款の担保は(1)税関の余款が毎年60万ポンド(2)塩税、通過税が毎年390万リール(3)戸部が担保の責任を負い、債券は戸部と総理衙門が捺印する。ということです。手続を済ませたのち、総理衙門は直ちに中国使館に対してHooley Syndicateが発行する債券を授権するように命令しました。

(61) 1897年10月1日 ロンドン発電信新字第585号

Panmure Gordonは今日Jamiesonと会談を行った後、Jamiesonの会社による借款はとんだ茶番であると確信したとのことでした。

(62) 1897年10月3日 ロンドン発電信新字第584号

ベルギー国王は急速に鉄道借款を獲得したと思っています。しかしフランス人は余りにも貪欲だとしています。来週の火曜日には信頼出来るニュースをお知らせ出来ると思います。ロンドンの新聞はHooley Syndicateのニュースについて余り関心はなく、このことを掲載するのも少数で、評判は余り宜しくありません。ウェストミンスター紙は、昨日、この種の担保はもし関税と同じように管理しなければ、何の役にも立たないと報道していました。

(63) 1897年10月3日 北京発書簡Z字第770号

Hooleyの借款は、見た所駄目になりそうだ。李鴻章はジャーディン・マセソン商会に対し

て打診した後、もう一度香港上海銀行と商談することをよしとしていない。面子を失う事を恐れているからだ。彼は他人が嘲笑するのを恐れ、そして私に相談するのも怖がっている。一旦私に相談するとHooleyの事はご破算になってしまう。しかし私は傍観して、行動の自由を保持する以外には、何もしていない。ベルギー人も聞く所によると、借款を行う程の力はなく、盛宣懷はやきもきしている。だが、これらの事情も最後にはやっていけない事はない。李鴻章はジャーディン・マセソン商会の代表と商談している時、M.G.Dubailが知らせて来たのだが、「Hooley、Jamieson 借款の事はほぼ完結し、私があなたに話しに来たのは、フランス政府は既にあなた方に替わって借款を行うことを決定していることです。」と言っていた。李鴻章は返答して、「とても感謝しております。しかしまだ貴方がたの出番ではまだありません」と言った。李鴻章が日本に行った時、私は事前に彼に一つ意見したことがある。私は「他の条件に対して私はなにも意見は無いのだが、賠償問題について、何とか日本側に何年間に分割して支払う事に同意してもらえる様にして下さい。そうすれば中国政府はもう外債を負うことはなくなる。日本人はたぶん2万リールを要求してくるでしょう。もしそれを10年に分けて支払うとしたら、税関収入で負担することが出来る。」と言った。李鴻章は外債を借りる原則に則って賠償を7年に分けて支払う事にして、事を駄目にしてしまった。李鴻章は10年に分けてもらうことをすべきだった。そうすれば、中国は40年分の奴役を免れることができたし、5,000万ポンドを節源できたのに。私は日清講和会議の一員として日本に行かなかった事を非常に後悔している。私だったらばきっと10年分に分割することができただろうに。私は李鴻章はまた別の方向に手を出しているのではないかと、心配している。彼は私に、日本人は返済期間を7年以上にすることを嫌がっていると言ったが、私は信じない。

(64) 1897年10月6日 ロンドン発電信新字第582号

ベルギー・フランス政府は今彼らの銀行界を鼓舞して、ベルギーの中国での鉄道投資をさせようとしています。Gerardもバリで積極的に活動しベルギーの投資を支持しています。

(65) 1897年10月6日 北京発電信新字第733号

Hooley Syndicateは、すべては解決し、抵当金はすでに預け入れてあり、800万ポンドもすでに準備しており、端数についてもなんら問題はない。と言っている。

(66) 1897年10月6日 ロンドン発書簡Z字第1083号

私はPanmure Gordonの所から戻ってきたばかりです。最近のニュースを持って帰りました。JamiesonのPanmure Gordonへの手紙で、Hooleyは彼と直に会って話したく思い、彼

を今日あるクラブの昼食に招待している、と言っていました。Panmure Gordonは出掛けて行き、話しをした結果、このHooley-Jamieson Syndicateは全くでたらめでペテンであり、Hooleyのほぼ喪失しきった信用を維持するためのB級広告にしか過ぎないと確信したそうです。10万ポンドの抵当金に関して、彼らは借款が不成功に終わったときに契約違反の罰金とすることを考えていません。ただHooley自身の条件に従って銀行に預け入れるつもりです。Panmure Gordonは彼にどんな条件か尋ねましたが、彼は知らないと言いました。またいい担保が彼に与えられ、それは今後きっと大きな利益をもたらすのだと言いました。彼は自分が中国或いは中国人に対して少しも理解していないこと、借款を行うつもりはなく他の人が彼らにするように強要したことを認めています。私の新字第586号の電報で、タイムズ紙が昨日、借款の担保についての情勢を報道したことを報告しましたが、見た所、総理衙門或いは戸部が電報で羅豊祿に知らせたようです。羅豊祿は早速Hooleyに手紙を書き、彼に10万ポンドある銀行に預けさえすれば、羅豊祿は直ぐに契約にサインすると言っていました。Panmure GordonはHooleyはきっと知らん顔して、責任を中国に押しつけてしまうと考えています。私もずっとそう思っていました。私は金融の新聞に載った記事を見ましたが、どれもこの新借款に触れていません。そして面白いことに、今日すべての中国債券が値上がりしました。

(67) 1897年10月8日 ロンドン発書簡Z字第1084号

Hiilが申すには、Hooleyは彼らに会いに行った事があり、彼の話によれば、あの会社に幾らかの進展があった様です。Hooleyはあの日羅豊祿からの手紙を二通受け取り、彼に10万ポンドの抵当金を預金する様促しています。彼らは明日ロンドンで預金し、信用担保にするつもりですが、彼の友人と法律顧問以外は、担保の条件は満足できるもので、抵当金は罰金に充てることは出来ないとしています。前回Panmure Gordonと会った時、HooleyはGlynn Mills & Co.から600万ポンド、スコットランド銀行から400万ポンド都合出来ると言っていました。Panmure Gordonは彼らに対して、これは人が信じられるような話ではないと言いました。Hooleyによると、今度はまたGlynn Mills & Co.は露清銀行の代理人であり、金を工面する事が出来ると言っていました。コーチ (Koch, A.F) は後にHooleyの話は何一つの真実はなく、露清銀行は決してHooley-Jamieson Syndicateとはいかなる行き来もしたくないという事を調査して明らかにしました。

5日、ニュースなし。6日に第733号電報を受け取りました。私はNobleの所から聞いて来たのですが、月曜の晩、HooleyはPanmure Gordonの所から出てくると、その足で中国大使館に向かい、9時を過ぎてやっと帰ったそうです。Nobleは、元来Hooleyと羅豊祿を使って共同で名義人となって、抵当金をイングランド銀行に入れさせようとしたが、総理衙門は北

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

京に預金するように要求し、これに対してHooleyは決して同意を示しませんでした。何故なら、彼の友人たちは自分達のお金で冒険するのを良しとしなかったからです。私は直ちに新字第582号の電報を打ちました。

昨日と今日ともにニュースはありません。もし抵当金が既に預金されているとしたら、Nobleはきっと知っているはずです。

10月3日にあなたから来た手紙でベルギーの借款について尋ねておいででしたが、私はすでに第734号電報で返答しておきました。柯赤は先週の木曜日にパリとブリュッセルから帰還し、聞く所によりますと、フランス・ベルギーの政府は現在、自国の銀行家達にベルギーの中国での鉄道投資を行うように促し、M=A=Gerardはこの事をかなり支持しています。

(68) 1897年10月9日 ロンドン発電信新字第581号

ベルギー国王は現在仏国総統を訪問しています。鉄道借款は大いに可能性があります。

(69) 1897年10月9日 北京発電信新字第732号

Hooley Syndicateの抵当金、またもや危うくなってきた。

(70) 1897年10月3日 北京発書簡Z字第771号

Hooley-Jamieson Syndicateの代表はまだここにいる。過ちや信用の喪失や契約違反を観察する事は最近の金融界で最も人の注意を引く現象である。私は久しく総理衙門に行っていない。彼らは今自分たちでやっているのだから、私は彼らの邪魔をしたくない。明日行って見ようと思うが、どのくらいの成果を得られるか、それは分らない。私が最も恐れているのは、ロシアとフランスの連合である。一旦この会社の借款が潰れ、かつその他の各方面が正式な担保がなく、借款を発行できない時に、ロシアとフランスはそこに付け込んで、彼らの援助を受けるように迫るであろう。彼らはおよそ、それを口実に日本にもっと恥をかかせようとし、援助を以て中国を麻痺させ、そこからロシア、フランス両国の勢力を拡張させようとしている。もしロシアが日本に対処するとすれば、まず台湾から着手するだろう。こうすれば、日本の兵力を誘い出して、日本本土攻撃がしやすくなる。フランスは澎湖を手に入れる事が出来る。ロシアは台湾を手に入れた後、それで東三省と引き換えることもでき、中国はロシアに感謝しなければならず、かつその事によって弱ってしまう。今後また面白い事がある。ロシアの最近の朝鮮での動向からすると、ロシアはもうすでに動き出しているようだ。ロシアが派遣した代表はすでに朝鮮に到着し、財政と関税を接收して管理している。J.McLeavy Brownは我々は撤退するしかないと言った。私はJ.McLeavy Brownに、しばらく動かないようにし、関係各国が意

見を発表するのを待って、動けばいいと指示した。しかし私はロシアが総理衙門に対して、私に我々の朝鮮にいる人員をすべて撤退させる命令を出すよう迫るのではないかと、心配している。もし朝鮮国王も我々に撤退せよと言うのなら、私もそれ以上逆らう事はできない。イギリスはまだどうしていいのかわかっていない。しかしロシア、フランスがもし自分の主張を固辞するのなら、イギリスは戦争にうったえる以外、その他のいかなる方法をもって彼らに影響を与えることはできない。イギリスは戦争をする価値があるのだろうか。私は外務省がまた極東のことで頭をいためているのではないかと思う。李鴻章は中国の前途に関するロシアの政策に恐怖を覚えはじめたようだ。しかし彼の地位、彼の身の安全さえもロシアに頼らなくてはいけない。よって彼はどうあれ、この道を歩まざるを得ないのだ。その他の大臣達は彼がこうした面倒なことをやってくれることを喜んでいる。この事はロシアにとってこの上なくいい状態だ。

(71) 1897年10月15日 ロンドン発書簡Z字第1085号

第732号新字電報を受け取った後、香港上海銀行の話によりますとHooleyの談判は最終的に決裂したのですが、それはなんら不思議な事ではありません。羅豊祿は人を送り、Nobleに対して、彼はすでに李鴻章の指示を奉じて香港上海銀行と共にHooleyが提示した事をベースに談判を行っていると話しました。羅豊祿はHooleyが自分で談判を打ち切ったのか、彼の同意を得た後に中断したのかを知らない。私は、この事はまだ決着がついていないと思います。ロンドンで何日か前、銀貨の下落によりHooleyはまた五厘半息の借款についてまた引き続き談判を行っているという噂がありました。この噂は事実でないと思います。

今月の9日私は第581号新字電報を打ち、ベルギー国王のフランス総統への訪問を報告しましたが、柯赤の信頼できる筋からの情報によりますと、ベルギー国王の真の目的は鉄道問題であるとのこと。結果がどのようなになるか、彼はまだ聞いていません。

(72) 1897年10月17日 北京発書簡Z字第772号

借款はまだ決定していない。Hooleyの茶番劇もまだ幕をおろしていない。最後の最後になってFrasselは10万ポンドを預けなかった。李鴻章は直ちに人を派遣してHillierに会いに行かせたが、同時にDubailらとも接触していた。私は全く関与していない。聞くところによると李鴻章は私を罵っており、彼の失敗や新聞の中国の担保が信用出来るかどうか中国には借款をする能力がないなど報道は全て私がやった事だと言っている。張蔭桓は今週中に着くであろう。以前の様に最後になって彼らはおおかた、また私に会いにくるであろう。その時私が手助けする価値があるかどうか問題だ。総理衙門は暫くは辛い目にあわなければいけない。中国の財

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

政困難はもっと増加するだろうから。もし彼らが改革を行い、そしてそれが穏健なものであれば、状況も好転するだろう。しかしこれは官吏達が最も嫌がる事だ。でも彼らを通さない限り、皇帝に改革を行う事を趣旨とする詔を發布させることはできない。私は以前、いつも私がこの仕事が出来たらと思っていた。今その時が来ようとしている。だが私の一生も終わろうとしている。他人に任せることは出来まい。

(73) 1897年10月24日 北京発書簡Z字第773号

借款の事はまだ解決していない。恐らくロシア・フランスの手に落ちるであろう。私は自分が挽回出来るかどうか分からない。しかし最後の最後にならないと、私に事は回ってこないだろう。私には一つ考えがある。相手側は受け入れるだろうけど、中国側が受け入れるかどうか分からない。しばらく他人に知らせないつもりだ。さもないと少し細かく調べればすぐに露顕して清国を駄目にしてしまうから。

(74) 1897年10月27日 ロンドン発電信新字第580号

イギリスの新聞は昨日ロイター通信の電信のニュースを掲載し、Hooleyの談判は失敗に終わり、清国は別途、香港上海銀行と談判を行っている。会社側は直ちに新聞に対して次のようにのべました。すでに駐中の代表からの電報を受け取り、盛宣懐の返答に照らした結果彼らの条件は全部受け入れられることを望めるとの事です。

(75) 1897年11月1日 ロンドン発電信新字第579号

上海ロイター通信によりますと、中国はすでにHooley Syndicateの1,600万ポンドの借款条件を受け入れたと報道しました。

(76) 1897年11月7日 北京発電信新字第730号

香港上海銀行は、いま新たな借款を考案している所である。

(77) 1897年11月7日 北京発書簡Z字第774号

イギリス領事館は私に対して以下のように伝えた。すなわち、Mac Leavy Brownと彼の仲間、朝鮮国王がAlexieffを任命する詔に調印した後、きっと直ちに朝鮮を離れるであろう。次に私の地位が奪われて、それが済むと「総税務司」も過去のものになってしまう、と。もし私がもう少し若かったら、私は絶対手放さないだろう。だが、齢63の私の体を徐々に老人病が蝕みはじめています。手放さずにいても、いいことはない。私は別の方向で小さな計画を持って

いる。もしそれが成功すれば、前途はまた違う様子になるだろう。私は今ことが進展するのを持っている。しばらく君には説明できない。

(78) 1897年11月9日 ロンドン発電信新字第577号

上海からの電報が届きました。フランス、ロシアはいま中国に対してロシア人をあなたの代りに総税務司の役職にするように迫っています。ロシア、フランス両国の目下の中国に対する債権の立場は、あなたが総税務司として派遣された時のイギリス、フランス両国の立場と同じです。そして2年程前、ロシア、フランス両国はドイツの支持のもと総理衙門に対して、三国の政府はあなたの留任は非常に不適切なことであり、撤退、交代を要求するという通知を出したことがあります。これは全くのでたらめな話であり、かつ、イギリスに対する一種の侮辱である。イギリス政府は断固として反撃すべきであると今日のイギリスの新聞は報じていました。

(79) 1897年12月23日 北京発電信新字第720号

私は香港上海銀行の代表が昨日打った電報を全般的に支持し、かつ銀行に借款の能力があるのならば、外債を発行し相手側の陰謀を打ち破る事を希望すると香港上海銀行に、伝えてください。

(80) 1897年12月24日 ロンドン発電信新字第558号

目下の危機的な状況の中では、商業の債権を発行することはできません。イギリス政府は実際、債券を担保とする必要がないにしろ、例えばイギリス政府がイングランド銀行に香港上海銀行と共に執行するよう指示するのならば、発行は可能です。イギリス政府は最低限、イギリスの政策は必要な時には、債券人の利益を保護することを宣言するべきです。イギリス政府に表面的に動いてもらうのは当然簡単なことではありません。しかしこれはロシア人の陰謀に対処する唯一の方法です。ロシアによる借款は難しいことではありません。彼らが担保とする四厘債券は、現在すでに額面の106%となっていますが、イギリス香港上海銀行が行っている五厘債券は94しかありません。

(81) 1897年12月24日 ロンドン発書簡Z時第1096号

昨日あなたの第720号電報を受け取りました。あなたは北京の香港上海銀行が発した二通の電報に対して全面的な同意を示し、私はすぐにCameronに会いに行きました。彼は北京の香港上海銀行の電報を私に見せてくれた後に、香港上海銀行は目下の状況では借款を発行する可能性はないと言いました。よって彼はHillierにあなたにその事を伝えるように頼みまし

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

た。Cameronはまた外務省へBertieに会いに行き、彼にもイギリス政府が手助けしなければ、ロシア借款の談判は成功するでしょうし、その結果中国はロシアの一つの州になってしまうであろうし、税関もイギリス人の手中にあることはあり得なくなる、等々と説明しました。Bertieは彼に彼自身の意見を直接首相宛ての手紙にしたためるように勧め、Cameronはすでに送りました。彼はきつい口調で、イングランド銀行は香港上海銀行を誘って借款を発行し、イギリス政府が担保するか、或いは必要な時に債券を所有している人の権利を保護するという声明を出すよう建議しました。

外務省はロシアには借款できる程の能力はないと認識しているようですが、これは極めて大きな誤解であります。聞くところによりますと、ロシアの黄金の貯蓄量は世界最大であり、フランスやドイツと連合としてこの借款を引き上げることは決して困難な事ではありません。1895年の四厘債券の現在のパリでの値段は106で、もしロシアが93%の値段で新借款を行うとしたなら、パリは100前後で売りに出すことができ、利潤は極めて大きいのです。

関係各国政府はどこも自分の意図を表に出そうとしません。フランスはイギリスがどういった行動をとるかを見た後に行動を起こそうとしていますし、イギリスは事態の進展を望んでいて、事が窮まらない限り、動こうとしません。だが、イギリスはまだ事態は窮まっていないと思っているようです。

(82) 1897年12月25日 北京発電信新字第719号

香港上海銀行がいかなる決断をくださったか、早急に電報にて知らせよ。

(83) 1897年12月25日 ロンドン発電信新字第557号

借款にイギリス政府の支持がなければ、決して成功しないでしょう。香港上海銀行はすでに書面で首相に対して要求を提出しましたが、今ちょうど休暇中であり、大臣の大半はロンドンにいませんので、まだ決定するのは難しい。あなたの所からも圧力をかけるべきです。それによってイギリス外務省に十分に、現在の政局はイギリスの利益に対して莫大な危険をはらんでいることを知らせなくてはなりません。

(84) 1897年12月27日 北京発電信新字第718号

香港上海銀行へ、「イギリス外務省は、中国がもしロシアの手に落ちると、イギリスにとってどんな影響があるか、当然はつきり理解しているはずだから、政策を決定し自己の行動を指導しなくてはなりません。総理衙門の大臣達は目の前の事しか考えておらず、後のちのことを顧みない。外国人が通過税を管理することは、中国官吏の懐に影響し、田賦の管理は政府にし

か影響を与えないから、総理衙門の大臣らは将来の一切の危険を顧みず、田賦をロシアに手渡してもいいと考えています。したがって彼らは、イギリス人によって通過税が管理され、内税を改革することに積極的ではありません。一部の大臣は香港上海銀行の方法がよいと認めているながら実権を持っていません。実権を握っている大臣は、ただ目の前の難関を乗り切る事を求めています、一時的な安泰であるにせよ、ロシアの言うことに甘んじようとしています。ロシアが表立って遼東を返還せよと干渉を行った事に対して、中国は非常に感激しているし、ロシアが提示する方案必然的に受け入れられ易くなっています。今、イギリスが出向いて手助けをしてやると、以降の局面を大きく変える可能性があります。目下の形勢は緊迫しており、極東の大局とも関係し、私は香港上海銀行がイギリス外務省の有力な支持が得られる事を切望する次第です。』

(85) 1897年12月27日 ロンドン発電信新字第555号

第718号の電報は、香港上海銀行よりイギリス外務省に届けられ、注目されています。

(86) 1897年12月28日 北京発電信新字第717号

第718号の電報ですでに、中国当局は田賦を抵当としても、厘金のことに言及しようとしな。目の前の財政権の救いばかり求めて、長期的な目で見ようとしな。香港上海銀行は、現在以前のことを改めて塩税を担保とすることを提示している。厘金のことには触れていない。それによって総理衙門の大臣達は、借款を香港上海銀行に任せよう願っている。しかし時間が切迫しており、Hooley-Jamieson Syndicateもまだ動いている。

(87) 1897年12月28日 ロンドン発電信新字第554号

総理衙門の大臣達は、中国の財政状況に対してまだよく理解していないようです。目下の段階では、いかなる種類の担保であれ、イギリス政府の支持がない限り、ロンドン市場では絶対に借款を得る事は出来ません。イギリス・アメリカとヨーロッパの大陸紙には、毎日のように中国分割の記事が満載しております。官僚側からニュースがないため、新聞は勝手に推測し、暴風雨が来ようとしているという感覚である。

(88) 1897年12月28日 ロンドン来電信新字第553号

717電は既に香港上海銀行よりイギリス外務省に届けられ、外務省は今真剣にこの事を考察しています。かつまだ抵当になっていない税関収入はあと幾らあるかを尋ねており早急な電報での返答を待っています。

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

(89) 1897年12月30日 北京発電信新字第716号

関税収入は7/10が抵当となった。余りは徴収費用、駐外国使館の経費及び沿海の燈台の維持費等々にあてがわれ、幾許も残らない。今春の為替損失のため、政府のその他の収入から補充されなければならない。分割はまだ事実とはなっていない。もし早くに適切な行動を取れるのであれば、回避できるかもしれない。ロシア人は借款の担保に対して、けして過酷な要求をせず、中国の意に適っている。ロシア人からしてみれば、皇帝が批准し、かつ償還を許されたら、それでいいのだ。そして事実上、彼らは既にこんなにも大きな帝国を抵当にしている。イギリス政府がもし自ら薄利の借款を中国政府に与えたら、利点は大いにある。何ら危険はない。イギリス政府が当事者から外れたところにあるのなら、将来武力を後ろ楯とする以外、指を加えて他人が優勢を獲得するのを見るだけになる。塩税収入は抵当の2,000万ポンドに優に足りる。

(90) 1897年12月31日 ロンドン発書簡Z字第1097号

タイムズ紙から他の新聞まで、すべてが中国の争奪戦について議論しています。中国の行動は、人々にイソップ童話の中のカエルとコウノトリの話の思い起こさせます。ロシアはその話に出てくるキツネと同様、中国に日本と論争を続けさせて、彼らの力が尽きるのを待って、彼らが争い合っていた肉の塊を得ようとしています。

我々の政府は各国及び本国の政策に対して秘密を保持します。私は第554号電信の中で貴方に対して、官僚達がニュース消息を公布する以前においては、新聞は何如なる事に対してもデータ目に見えたと報告しました。一般的に我々は様子を見るべきだとしています。しかし昨日ロイター通信社の北京での発表によりますと、ロシア借款の条件の一つ目が、あなたの後継者にはロシア人になるべきであるという事です。この事は他のどんなことよりもイギリスを驚かせる事であります。

昨日、第716号の電報を受け取り、Cameronは外務省に転送し、Cameronは外務省が十分に勢局の深刻さを理解したという事しか知りません。我々の政府の平静さは、或いは、ひとつの堅固な政策のカムフラージュかもしれません。Salisburyにとっておきの計画があり、時が訪れれば、発揮されるでしょう。

Cameronはたった今、北京12月31日の電報を持ってきました。内容は以下の通りです。「準公的な報道によりますと、ロシア使館は李鴻章に対して、ロシアは……に関する建議を撤回する。理由は中国は信義に背いて、香港上海銀行と同時に英・独・仏借款について商談したからであります」。

李鴻章は今、どのようにするつもりでしょうか。彼は香港上海銀行との商談を停止するのでしょうか。私は、今イギリス政府が介入して、主導権を握ることを望んでいます。

五厘借款はすでに、98.875にまで下落しました。今の状況では、もっと下がらないのはおかしいです。

(91) 1898年1月7日 ロンドン発書簡Z字第1098号

スクラップを見てもらえば、すぐに解ると思いますが、イギリスの新聞は一致して、イギリス政府が対華借款を担保することを支持する意見を出しています。今月5日、私はすでに電報で、五厘債券はこのことによって、98.75まで上がったと報告しましたが、今はまた100.375にあがり、額面より0.375高くなりました。イギリス政府の担保は素晴らしい。信じがたい事に、タイムズ紙の北京記者の電訊によりますと、ロシア政府が担保する借款の手続はまだ終了しておらず、(まだ)続行中です。

(92) 1898年1月8日 ロンドン発電信新字第550号

タイムズ紙の北京駐在員から電報が届き、ロシアの借款は未だなお、商談がまとまらないとのこと。イギリス政府はすでに三厘債券の担保を承諾したと広く噂され、これにより中国の信用が増大し、中国五厘債券はすでに額面より0.375高くなりました。ドイツの新聞は膠州湾の租借権を獲得したニュースで沸いています。

(93) 1898年1月8日 北京発電信新字第715号

香港上海銀行に取り次いで欲しい、「借款がもし他の人から発行されるとしたら、貴方たちに、何とかしてその経営処理権を手に入れてほしい。貴方たちの所は、完成された機構を持ち、この項の業務を処理するのに、他の人々に比べて非常に都合がよい。」、と。

(94) 1898年1月8日 ロンドン発電信新字第549号

香港上海銀行に代わって、「715号電報はすでに外務省に転送しました。貴方の多大な援助に対して非常に感謝しております。」内閣は本日閣議をひらきます。

(95) 1898年1月10日 北京発電信新字第713号

第550号の電報について、ロシアはイギリスと連合して三厘借款を担保にすることに応じたことは、確であるか。

(96) 1898年1月10日 ロンドン発電信新字第547号

第713号の電報について、事は不確です。今日また噂があり、イギリスの担保はほぼ確定し

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

たが、官庁側はまだ公布しません。貴方は詳しい内情を知っていますか。北京側には問題はありますか。オーコナー（O’Conor）は急にペテルブルグに帰国しました。

(97) 1898年1月11日 ロンドン発電信新字第546号

第713号電報について、Balfourは昨日マンチェスターで特別演説を行ない、イギリスは商業利益のみを求め、領土を占拠する野心はないので、商業利益は必ず維持し、保護します、と述べました。彼は借款の事に触れませんでした。一般的にイギリスは直接中国政府へ借款するものと見られています。そうすれば、直接的な債権の関係を保つことができ、担保は無用になります。露、独、仏の新聞の論調も緩和されてきました。五厘債券は額面の1.25に高漲しております。

(98) 1898年1月12日 ロンドン発電信新字第545号

ロイター通信の北京発の消息によりますと、借款の談判は、相当の遅れがあるようで、借款担保以外、信用できないのにも関わらず、中国政府はまだ面倒なことを起こそうとしています。マンチェスターの新聞では、英・独両国政府の間で了解し、連合して借款し、香港上海銀行とドイツの銀行によって行われ、ロスチャイルドも参加するかもしれません。

(99) 1898年1月13日 ロンドン発電信新字第544号

ロイター通信、ベルリン発の消息、英・独両政府はすでに対華借款において了解が成立したことを否認しました。

(100) 1898年1月14日 ロンドン発電信新字第543号

タイムズ紙の北京駐在員からの電報によりますと、ロシア借款は未だ正式に拒否されていないが、すでに停頓し、中国はイギリスに手助けしてもらい、比較的有利な条件で借款を獲得できることを望んでいます。またタイムズ紙のベルリン駐在員によりますと、英・独合作の可能性は、すでにドイツの新聞で論ぜられる論調は友好的なものになっています。ある中国の駐独使館と関係を持っている新聞は、中国政府は、イギリス人以外では借款が成立しないので、この借款の仕事はあなたにまかせようとしていて、今イギリス政府は表面に出て担保をしなくとも、必ず支持するであろうし、担保物件の多くは恐らく塩税であろうと報道しています。ドイツの新聞は借款の成功を切望していると示しています。かつ中国総税務司はイギリス人が全て執り行うべきではないが、中国政府が信任した人を派遣することができ、イギリスは朝鮮税関をロシアに譲り、かつBrownをあなたの後任にしようと提示しています。この提案はおのず

からロシア人の同意を得ることができるとしています。

(101) 1898年1月7日 ロンドン発電信新字第542号

タイムズ紙及びロイター通信社はイギリスの大使館が総理衙門に対して提出した1,200万ポンドの借款条件を載せました。世論及び証券取引所の反応は良好です。

(102) 1898年1月18日 ロンドン発電信新字第541号

昨日、イギリス政府の大蔵大臣は、ヨーロッパ或いはその他の国家が中国の領土を割譲或いは征服することを承認することはできないと公言しました。我々は中国をイギリスや全世界にとっての最も希望が持てる商業市場としてみています。よって、イギリス政府は、決して中国市場の門を閉ざさせてはならないと心づもりしています。例えそのために戦争をするような事も辞さないでしょう。

(103) 1898年1月20日 ロンドン発電信新字第539号

大蔵大臣は昨日、借款についての談判に言及した際に、この事は中国政府の自らの決定を持っていて、新聞が伝えているのは、全く正確というわけではないと言いました。イギリス自由党と一般世論は、政府の政策を全面的に支持しています。

(104) 1898年1月21日 ロンドン発書簡Z字第1100号

Cameronは極めて信用のできる筋から、タイムズ紙の北京駐在員の電信はイギリス政府を困らせていて、外務省は更に腹を立たせているとの話を聞きました。今日の午前のタイムズ紙に掲載された電信によりますと、ロシアの代理は総理衙門に対して抗議し、さらには中国は大連湾を開放してはならないと恫喝しました。イギリス政府は、中国に対して、ロシアの報復の動きに気を付けるよう警告し、中国に対してこれ以上の友情関係も保証しないとしました。その結果、中国側は「動揺」してしまいました。イギリスが提示した条件をすっぱ抜いた後には、以上のような必然的な結果でありますので、私はあなたに電報で報告することはないと思いました。

(105) 1898年1月22日 ロンドン発電信新字第538号

私の第542号電信で言った事は、イギリス外務省にとってあまり喜ばしくなかったようです。事がまだ成熟していないので、軽率に発表すべきではありません。新聞によりますと、露、仏はすでに脅迫を行い、中国は動揺しています。

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

(106) 1898年1月23日 北京発書簡Z字第780号

我々の方は借款問題で忙殺されている。イギリスの提議は歓迎されているが、提議が受け入れられる前に、沢山の障害を取り除かなくては行けない。契約の中に監察に関する項目を設けるべきであるが、一部の人が激しく反対している。全ての事を正規のルールに乗せるために、まだ時間が必要だ。

(107) 1898年1月30日 北京発書簡Z字第781号

借款の状況はよろしくない。フランスとロシアは中国に対して、きわめて横暴な態度をとっている。ロシアはまず大連湾の開放に反対し、次にまた借款そのものに反対し、均勢を取り消そうとしている。Dubailは昨日、総理衙門に対して、もし南寧を開放するのなら、フランスは直ちに海南島よりも広い地域—それはたぶん北海東南の半島（編者注：地図の位置からすると、雷州半島を指している模様）を奪取するであろう。こうすれば、中国を通じてイギリスを指揮するようになり、イギリスは不利な立場に追い込まれる。私は始めから MacDonalld に他の問題に干渉せず、借款にこぎつけなければいいと勧告したのに。しかし、R.S.Gundry らが外務省をあやつって、多くの条件を出しているのだ。このような条件は、担保としても、承諾の言葉としても、なんら特別な価値はなく、逆に他の国家の怒りを買って、中国に困難を招いている。私が心配していた状況がだんだんと現実になってきている。これは中国に対して、本当にロシア・フランス同盟に加盟しろと迫っているのも同然である。

(108) 1898年2月3日 ロンドン発電信新字第537号

Detring からの密書によりますと、許景澄は命令を受けロシアの首都に赴き、全部或いは一部の借款契約に調印する模様です。

(109) 1898年2月4日 ロンドン発電信新字第536号

Detring からの電報の報告；許景澄は昨日の朝すでに出発し、勢局に変化があり、許の借款問題についての仕事は、失敗する可能性があります。ロンドン市場の中国債券は一段と下落しています。

(110) 1898年2月4日 ロンドン発書簡Z字第1102号

借款の談判は熱くなったり、冷めたりで、私たちはとても不安です。許景澄はペテルブルグに行っても、なんら良い事はないでしょう。私は Detring の 2 月 1 日にベルリンから出された手紙を受けとったのちに、昨日、あなたに第537号電報を出しました。手紙は以下の通り、

「中国の駐在大使・許景澄は命令を奉じて、ペテルブルグに行き、借款の件を執り行い以て日本に支払う賠償金の全部或いは一部とする。許景澄はもともと帰国しようとしたが、帰り際に動くべからずの命令を受け、その後ロシアの首都に派遣されました。私が報告したこれらのニュースは、中国がロシア資本の奴隷となるのを阻止しようとしたからであります。許景澄は明後日にベルリンを離れます。以上の事を総務局とCameronに内密に知らせ、参考とされたし。」

私はDetringに反電を打ち、「手紙は受け取りました。許景澄はもう出発しましたか」と聞きました。Detringの返信を受けとった後に第539号電報を打ちました。

保守党の新聞、特にスタンダード紙は、政府が本当の事を民衆に報道していないと厳しく批判していて、政府は各政党が一致した見解と主張を持つことを放棄したとの話が広く流布し、パニックを引き起こしています。

一部の人は、タイムズ紙の記者が1月17日に出した電信は、大連湾問題に関するひとつの試みに過ぎないと見ていますし、また他の一部の人は、大連湾を通商港として開放することは、借款の条件のひとつだと見ています。私は国会が今月8日に開会される時に、事の真相がわかると思います。

(111) 1898年2月6日 北京発書簡Z字第782号

巨額な借款は困難を招いた。日本に対して賠償金支払いを6ヶ月延期してもらい、日本はそれに同意したようだが、許景澄がペテルブルグに行ったことは漏れてしまった。中国が借款もとりつけられず、賠償金の支払いも延期してもらえないという結果になるのではないかと私は懸念しています。

(112) 1898年2月10日 北京発電信新字第708号

香港上海銀行に伝えてもらいたい。事を執行する際は全て機密を保持し、新聞の上で話したり、談話の中で、証拠を残したりしてはいけない。また、事前に発行書を発行する必要もない。

(113) 1898年2月11日 ロンドン発電信新字第534号

第708号電報について、香港上海銀行は、この事はイギリス政府及びイングランド銀行の支持がなければ成功しないと深く懸念しております。特に首相はすでに声明を発表し、膠州は自由港として一般的な港湾とするのが望ましく、タイムズ紙も支持を表明しています。

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

(114) 1898年2月11日 ロンドン発書簡Z字第1103号

Salisburyは借款の談判はまだ終了していませんと言っていますが、バルフォア (Balfour, F.H) は、すでに談判は終了したと言っています。Salisburyは自由貿易港は通商港より強いと見ており、各省の大臣とタイムズ紙もこの見方を支持しています。モーニングスター紙は突然論調を改め、この見解に同意しました。この種の見解は、イギリスは中国においては商務的利益のみを求め、領土も占拠しようとする野心はないという声明とイギリスが自国の条約権利を保持することとの間に矛盾はないのでしょうか。イギリスはこの自由貿易港政策を承認したが、そのことが中国の分割、割譲をひきおこさないでしょうか。タイムズ紙とモーニングスター紙等の新聞は、ドイツが膠州を占拠したのは、イギリスが香港で行った前例をまねたに過ぎません。しかし状況は似ているでしょうか。香港は荒れた島であり、戦後イギリスに割譲されました。しかしドイツは談判や警告を経ずして、膠州湾を奪い取っていきました。これ以上に虎門寨条約の第八条において、イギリスはその他中国と貿易する国家の為に同様の通商港で貿易を行う権利を獲得しました。香港はみんなが貿易を行うのに必要な保障です。

あなたの第708号密電を受け取った後、今日新字534号電報を打ちました。

CameronはBertieに手紙を書きそして会いに行きました。外務省は、行動を起こすつもりはないようです。ロシアを怒らせるのを嫌がっているのは明らかですが、Salisburyの演説の最後の所は、すでに財務大臣に「イギリス政府には、決して中国市場の門を閉じさせない心づもりがあり、そのためであれば戦争をすることも辞さない」といった言葉と違うものになっています。

(115) 1898年2月12日 ロンドン発電信新字第533号

香港上海銀行の頭取は、信頼筋から得た消息ですが、すでにロシアの首都で借款談判を開始し、ドイツが出費し、ロシアが間接的に担保することです。我々の目下の談判はこのことで中断される可能性があります。イギリス外務省はその細項を知っていますが、ロシアにしるドイツにしる、この巨額な借款をできる可能性があると思なしていないので、行動を起こそうとしません。あなたの方で何とかしてイギリス外務省を動かしてみてください。そうすることは、有益であって一害もありません。

(116) 1898年2月12日 北京発電信新字第707号

中国側はすでにイギリスからの借款を拒否したので、この時になってイギリス政府の援助をのぞきこむことは難しくなった。しかし中国は今、早急に借款を必要としているので、もし香港上海銀行から借りることができないのならば、必ず他の所で工面しようとするだろう。借款

の担保は信用できる。そして財政改革を承諾する様子で、債券がもしイングランド銀行のサインをとりつけることができるとしたら、香港上海銀行は借款の執行を承諾するであろうか。

(117) 1898年2月13日 北京発書簡Z字第783号

借款は中国にとって極めて重要である。私は香港上海銀行が承諾してくれることを望んでいる。総税務司が通過税という担保を代理して管理することを提示したのは、とてもいいことであり、大いに希望がある。総理衙門は私に対して「もしあなたが徴収する通過税が、現在より多いのならば、我々はすべての財政官僚の反対をも顧みず、あなたに通過税の管理をまかせることは正しいことです。そして将来、あなたの管理範囲を拡大することもより理由付けができます。」こういった青写真ができあがれば、多くの改革が行えるのではないかと思っている。

(118) 1898年2月14日 ロンドン発電信新字第532号

香港上海銀行は借款はまだ希望があると思っています。できれば担保の詳細な事情を知りたいです。ベルリン側では今会議を開いて、借款のことについて話し合っています。ロシア国際銀行の代表が参加しています。

(119) 1898年2月18日 ロンドン発書簡Z字第1104号

ロンドンの関係筋は一般的に、最後にはイギリス政府が担保する借款があると見ています。もしロシアが本気で借款に手を入れたいと思うのならば、中国は屈服するしかないのではないかと心配です。

私は今月の14日の新字第532号電信でも述べましたが、香港上海銀行はまだ希望があると見ています。しかし関係者たちと商談する前に、彼らは新担保の詳細事実を知りたがっています。

(120) 1898年2月21日 北京発電信新字第706号

新借款1,600万ポンドの契約草案はすでに調印された。総理衙門は私の意見を聞き入れ、私に塩税と通過税についてはまかせることに応じた。毎年の約五百万リールの収入を借款の担保とし、かつ将来管理の範囲を拡大することができる。このことは、政治上の重要性以外に、財政改革の発端となり、中国復興の先決の条件であって、前途に大いに希望がもてます。香港上海銀行が執り行える事を切望している。香港上海銀行とドイツ側とは借款を分担する契約があるが、私はただ香港上海銀行としか契約草案をかわすことはできない。ドイツ側とは関係は生まれません。ドイツ側が分担して借款するつもりであれば、自然に香港上海銀行と我々がかわした条件に応じることになります。香港上海銀行に伝えてもらいたい。

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

(121) 1898年2月21日 ロンドン発電信新字第529号

第706号電報はすでに香港上海銀行に伝えました。彼らは今、ドイツと接衝している所です。

(122) 1898年2月22日 ロンドン発電信新字第528号

ドイツ側はすでに借款の半分を承諾、負担し、香港上海銀行が示すところでは「勝手にしろ」という態度です。なのに彼らはすでに禁じられず奪い去っていきました。早急に正式の契約を結ぶ用意を行って下さい。延期すれば危険が大きくなります。債券をイングランド銀行に登記する問題について、中国政府が前回のイギリス政府による援助に感謝の意を示し、かつイギリス政府に依託してイングランド銀行に請求しない限りおそらく難しいでしょう。もしこの登記がないのならば、民衆は債券の担保品について、大いに疑うでしょう。

(123) 1898年2月23日 ロンドン発電信新字第527号

新聞の英・独借款に対する反応は良好であり、イギリス外務省が公布した中国政府とイギリス政府との協議に対して満足の意を示しています。外務省はあなたの第706号電報を受け取りまして、とても喜んでいました。五厘債券は額面より2%高昇しました。

(124) 1898年2月24日 ロンドン発電信新字第526号

借款問題は解決し、イングランド銀行は登記に応じました。香港上海銀行はすでに電報で駐北京の代表に正式に契約に調印するように電報を打ちました。

(125) 1898年2月25日 北京発電信新字第704号

香港上海銀行は、84の数字で発行するのか。

(126) 1898年2月25日 ロンドン発電信新字第525号

香港上海銀行によりますと、最多で83しか出せないとのこと。幸い昨日のうちに借款の契約を結び、もうアメリカの戦争についてのデマに影響されることはありません。ロンドン金融市場で大混乱があり、五厘債券は0.5%減少です。

(127) 1898年2月25日 ロンドン発書簡Z字第784号

2月23日各紙は外務省が発表した中国に対するイギリスの譲歩に関する文書及び新借款に関するベルリンからの電文を掲載しました。香港上海銀行はあなたの助言に従って秘密を保持したが、ベルリン側から漏れてしまいました。もしこれらの譲歩が早く行われたのならば、香

港上海銀行は83よりもいい数字を得ることができたかもしれません。香港上海銀行は今日あなたの第704号電信に対する返事で、あの当時は83よりもいい数字は出せなかったと言っていました。幸い昨日借款が決定しました。なぜならアメリカでの戦争の脅威が今日、不安を引き起こしていますから。一手販売はきわめて順調で、それは主に外務省が時機を逸さずに中国に対するイギリスの譲渡を宣布したからです。

(128) 1898年2月27日 北京発書簡乙字第784号

惜しいことに、香港上海銀行は16%引きに成功しなかった。だが総じて言えば、我々はすでに難関を突破し、運がよかったと言えよう。厘金を管理するという事は簡単なことではない。そして各省の当局がみな反対することであろう。厘金の管理をはじめたら、すぐに財政改革をする。これは私がずっとしたかった仕事だ。今となってやっとなりに任せることとなったが、すでに遅すぎると思う。

(129) 1898年2月28日 北京発電信新字第703号

この度の借款についての取引で、もし香港上海銀行が84或いは85という数字を出せないのならば、やはり大きな問題である。ロシアはすでによりよい条件を出している。さらに圧力をかけてきているので、総理衙門はすでに動揺している。

(130) 1898年2月28日 ロンドン発電信新字第524号

香港上海銀行はすでにドイツに電報を打ち、謝罪しました。もし契約草案に調印したのち、借款についてまた変更するようなことがあれば、中国は永久にロンドン或いはベルリンから借款することができなくなるでしょう。なぜなら両地の証券取引所はきっと中国の債券を許可しないであろうから。

(131) 1898年2月28日 ロンドン発電信新字第523号

香港上海銀行はすでに電報で駐北京の代表に対して発行価格を考案するように発令しました。総理衙門に契約の草案を忠実に履行するよう希望します。

(132) 1898年3月2日 北京発電信新字第702号

正式な契約はすでに調印された。ロシア人はどうすることもできず、フランス人は陰かに報復を企んでいる。借款の担保となる厘金は、海関（税関）がかかって徴税する。

(133) 1898年3月2日 ロンドン発電信新字第522号

Curzonは昨日会議の中で、中国海関は引き継ぎイギリス人によって総税務司を担当することになったのは、イギリスの貿易上の優勢を尊重していることを示しています。と言いました。イギリス政府の政策は、中国の独立と保全を保持し、我々の条約の権利を保障し、かつ貿易の自由の原則を堅持することにあります。

(134) 1898年3月4日 ロンドン発書簡Z字第1106号

あなたからの電報によりますと、借款はあと少しで失敗するところだったようで、私はあなたのところから、あなたが介入して借款を成功させたという話が聞けるかと予測していました。我々のところも切々と不安を感じています。さき程Cameronからの電報が届き、それによりますと、昨日の命令文はすでにイギリス公使のもとに届き、私たちもとても嬉しく思いました。

CameronはHillierからの電報を受け取り、82かけから85かけの間で規定すべきだとし、私はその数字に間違いがあるのではないかと見ています。CameronはただちにHillierに電報を打ち、割引きに違いはないかとたずねたが、間違いがないかという返事がかえって来ました。Cameronは、もしドイツ側に対して84かけで建議すれば、彼らはためらって、82かけに改めるかもしれないので、83かけで提示した方がいいのではないかと見ています。

私はあなたから届いた2月28日の第703号電報をCameronに転送したあと、彼らはドイツ側に意見を求め、またHillierに電報を打ち割引き問題に関する考案を述べています。私は一日のうちに第524号と第523号の電報を打ち、内容はCameronの電報と全く同じです。この件に関して、Cameronは今日またHillierに手紙を書き、かつHillierに手紙をあなたに見せるよう要請しました。

3月1日、香港上海銀行と私もども北京からの電報を受け取っていません。私たちは非常に不安に思っています。午後四時になってCameronはやっとBertieからの電話をもらい、話によりますと、MacDonaldからの電報をうけ、正式な契約調印はその午前中に済まされたとのことです。

スクラップから、国会での中国問題に関する弁論の全面的な叙述を見ることができますし、私が3月2日に出した第522号電報でも触れました。今日のタイムズ紙の北京とベルリンの電報を参考に見て下さい。北京からの電報によりますと、あなたはすでに中国を出発する日を延期し、厘金の代理徴収の仕事は財政上において良好な効果を得られたときにまた考慮すること。借款の発行書はできるだけはやく出してほしい。なぜなら、フランス政局は不安定であり、西アフリカ問題の雲行きもよろしくありません。スペインとアメリカとの関係も危機を迎

えていますから。

(135) 1898年3月6日 北京発書簡Z字第785号

聞るところによると、銀行は83かけの借款を90かけで発行する予定だそうだ。この取り引きで7%賭けようとしている。私は切に彼らが発行を少し低く設定することを願う。それは、一方で借款の最終的な成功を保証し、同時に中国政府に「騙された」と思わせないようにするためである。よって契約はすでに調印されたにしろ、私はやはり電報を打ち、発行価格に影響を与えないという条件のもと、83かけをすこし引き上げることを考案してほしい。将来、また財政上の取り引きがあるかもしれないので、香港上海銀行はすこし公平であってほしい。それによって将来にわたって優先的にこれらの取り引きを取得できるようになるから。

(136) 1898年3月11日 北京発電信新字第699号

中国は中露交渉が戦争に巻き込まれるか或いは中国の返債能力を減少させることを予測できない。外務省は借款を政治の色に染めようとしているので、何ヵ国かを怒らせてしまった。聞きつての債券発行価格では、借款を失敗に終わらせる可能性がある。発行価格は88かけより少なくするべきではない。

(137) 1898年3月12日 ロンドン電信新字第579号

Curzonは昨日、議会で問題に対して答弁する時に、ロシアが英・独両国の対華借款へ反対している、或いは正式に抗議を提出したというニュースを聞いていないと言いました。イギリス外務省は尽力して借款に政治色を帯させることを避けようとしたが、借款の成功に功績があったわけではありません。発行価格に関して、香港上海銀行はすでに駐北京代表に電報を打ち、相談しています。

(138) 1898年3月12日 北京発電信新字第698号

ロシアが提示した要求は、ロシア使館の虚勢を張った恫喝かもしれないし、借款そのものをぶち壊すためかもしれない。ドイツの躊躇も疑い深いものである。もし彼らが手を引いたら、ロンドンは独自で全ての債券を吸収することができるだろうか。

(139) 1898年3月12日 ロンドン発電信新字第518号

Detringがここをおとずれて、許景澄はすでに今日、ペテルブルグに到着し、ロシア皇帝に謁見し、旅大を租借したいという要求を放棄するよう要請するつもりです。

(140) 1898年3月13日 北京発書簡Z字第786号

我々はまだ借款が成功するか否か知らない。Curzonは下院で「全てのことは我々の公使であるMacDonaldにしかできない」と話したことを、ロイター通信は電報で発表した。各国の使館はただちに連合して、この非商業性の秘密的政治借款をどうやって打ち消すか相談している。発行価格の問題も残っている。聞くところによると90かけだそうで、「友人たち」は中国に対しては、中国は83かけしか得られず、銀行は90かけをもらっているという、そうすれば中国はまさに「騙された」ということになる。君が最近送って来た第519号の電報で、Curzonはすでに「譴責」されて、自分の過ちを認めましたが、出してしまった損失は、もはや取り戻すことはできない。

(141) 1898年3月20日 北京発書簡Z字第787号

この一週間は煩わしいことばかりだった。君の第514号電報を今うけとって、中国はどうしても借款を得ることができると知って、大変安心している。なぜなら中国が借款を得ることができれば、私は厘金の仕事をするができる。しかしこの仕事に一旦手をつけると、その膨大さを感じて、私は恐ろしくなってその仕事を放り出しそうになった。いつも私は自分に「なぜ1893年の時点で帰国しなかったのか」と問い詰める。しかし、私は依然としてここにいる。だから命令に服従し、そのことで悩むのはもうやめた。

(142) 1898年3月23日 ロンドン発電信新字第510号

債券の購入申し込みは、今日で締め切られました。イギリスの投資者は新聞の噂や目下の種々の政治のごたつきに影響され、購入申し込みは、わずか26%である。中国債券の相場は下落しました。

(143) 1898年3月25日 北京発電信新字第692号

イギリス人はすでに1/4を購入申込し、ドイツ人の購入申込の数字は原価の2倍に達している。なんと変なことだろう。一手販売する商人はまだ購入申込されていないを残額を購入することができるかどうか。

(144) 1898年3月25日 ロンドン発書簡Z字第1109号

ドイツ側が言うには、彼らは半分の借款購入申込額は2倍を超えました。タイムズ紙は疑いの念を示している。ドイツの銀行は自分で債券を一手販売し、自分で任意に分担し、大衆の購入申込について何もしていません。全部で16、17の銀行が借款に参加し、全ての債券を引き

受けたとしても、全部の銀行に分配するとしてもひとつの銀行につき50万ポンドに過ぎず、その後にもまた徐々に大衆に対して放出するでしょう。イギリスの大衆は新聞紙上に載ったあれらの電信と現時点の政治側混乱に対して非常に驚きを覚えて、債券に対して手を付けようとしなない。しかし、一手販売者（ロンドンの一部の最も責任を負う金融界の人々を含む）が債券を全て引き受け、人々の心が安定し再び投資するのを待ちます。毎日の電報が、ドイツ人は愛国心による借款に賛成しているが、現時点の政治のもめごと、例えばロシアとフランスの要求、スペインとポルトガルの危機、西アフリカ事件、エジプト問題及びトランスパール問題はどれもドイツの利益に影響しません。債券はまだ今の88を下回ることがなかったのは、不思議なことです。大衆が購入申し込みする以前から割引きすることを防止するために、香港上海銀行は大量の資金を使って市価を維持するしかありません。

(145) 1898年3月25日 ロンドン発電信新字第509号

我々の担保を発行した一手販売者はみな信頼できる投資会社であり、すでにまた購入申し込みされていない債券を引き受けてくれるでしょう。ドイツ人は国家を愛し、それによって借款に賛成し、ドイツの利益も露・仏が中国に対して提出した要求によって、米西戦争或いは西アメリカ危機によって影響されません。中国の債券はまた下落しました。

(146) 1898年3月27日北京発書簡Z字第788号

一手販売者は余分の額面を引き受けたことは、満足できないことである。しかし、惜しいことにイギリスの購入申し込みの数字は余りに小さく、借款しているのがイギリスだと言う色彩がそのためにまた減少してしまった。ドイツ側の熱情は予想を超えるものであり、私は、君の第509号の電報で言ったこと以外に必ずなにかあると思う。どうであるにしろ、私たちは今は厘金の仕事をするしかなく、私は実を言うとしたくない。もともと借款が失敗すれば、厘金の仕事もする必要がなくなると思っていた。今はいくらかの初歩的な手配に忙しい。妥当な人を選び、新たに人員を増やすところだ。

(147) 1898年4月3日 北京発書簡Z字第789号

オランダ公使がかつてひとくち400万ポンドの借款について話したことがある。Dubailはそれをフランス借款に攻めようとして、一週間ばかり画策した。

我々の借款発行の前途はいかなるものか、私はそれほど懸念していない。結果として失敗したのならば、私は厘金についての仕事をしなくて済むし、成功したのならば、逆にその新たな責任を負わないといけなない。厘金の仕事は決して楽ではない。そして間違いがあってはならな

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

い。私は情勢が以下のものであると思う。総理衙門の大臣たちは「我々が必要なのはお金であり、5月6日にほしい。銀行はハートに厘金を管理させるように要求している。よしい、いだろう、彼にやらせよう。そのうえ彼に徴収を頼んで、全てを彼に任せよう。もし借款ができなければ、私たちは銀行に対して『これはあなたたちが要求したことではないか』』というだろう。だから私は絶対に特別注意を払ってはじめてからきちんとうまくやらなければいけない。さもなければ、借款が支払われたあとに私はまた彼らに対して税関の人員によって内地で厘金の徴収を支持するより要求しても、きっとだめだろう。5月1日私は人を派遣して当地に行かせて各通過税局をまかせなくてはいけない。しかし各局に必要な人員はそれぞれ研究したのちに徐々に派遣するしかない。戸部は私たちにいかなる情報も提供しない。彼らは、現地に行けば、わかると言った。

(148) 1898年5月8日 北京発書簡Z字第792号

Hillierは手紙でロンドン香港上海銀行に対して、今月6日に債款11,008,875ポンド16シリング9ペンスを中国公使に引き渡すように告げた。

(149) 1898年6月28日 北京発電信新字第683号

御史が上奏して総理衙門の何人かの大を弾劾した。彼らは最近の借款の中で500万リールの賄賂を受けたからである。香港上海銀行におたずねしたい。(1) 以前、借款のために中国人側に対してワイロを使ったかどうか。(2) 一手販売商業者はひとりずつ何%もらっているか(誰に支払ったか)(3) 香港上海銀行自身の手数料は幾らであるか。(4) 債券の今の市場価格は幾らであるか。それと香港上海銀行にイギリス使館へ電報を打って抗議させて、公使から中国政府に調査を要請し、もって名誉を保つように勧める。同時に香港上海銀行に、ドイツ銀行に対しても以上の四つの質問に答えてもらうよう要請し、かつドイツ使館に同様の行動をとってほしいことを伝えよ。早急に済ませてもらいたい。

(150) 1898年6月28日 北京発書簡Z字第801号

私は今日電報を打って君に御史が総理衙門の大を弾劾したと尋ねた。当然どの官僚も全てがお金を欲しがっている。しかしこの御史は英・独借款を取りあつかってきているから、我々は彼らを掴まえて、彼に証拠を提出するようせねばならぬ。さもなければ、私はこの仕事から手を引く。

(151) 1898年6月29日 ロンドン発電信新字第496号

第683号電報を Hillier に転送しました。香港上海銀行は、彼らの返答を得る前に、あなたからの問題に答えるのはよろしくないで、あなたと彼とで相談して下さい。債券市場価格は88です。

(152) 1898年6月30日 ロンドン発電信新字第495号

Cameron は、一手販売商には2%支払って、印紙税、経営者手数料、イングランド銀行登記費及び市場価格維持費で合計で約2.25%以下に傾くでしょう。S. R=Rondol は最近の首相と大臣たちの談話からすると、あなたの電報はすでに Curzon から内閣に送られ、効力を発揮したそうです。

(153) 1898年7月3日 北京発書簡Z字第802号

香港上海銀行は前回の借款のときに中国人に金を支払ったが、それは全て必要のないことだ。なぜなら、借款の事は全て私を経由してなされているのだから。このようにすれば、面倒なことを起こすことになるかもしれない。それに私が提示した問題に対する返答は私に返すべきで、そうしてやっと私は状況を掌握することができるのに、暗中模索するまでもなく、違いを起こした。私はもともと一手販売商がこの度3%か4%賭けたと思っていたが、あとで2%の賭けで銀行が5%賭けたのを知って私はとてもいぶかしく思っている。当初もし中国に84かけを与えることができ、しかも銀行が88かけで発行していたら、どれほどよかったか。しかし、このことはすでに過ぎたことだ。もう話しに出す必要はない。次回の借款はまだいつになるかわからないのだから。

(154) 1898年7月15日 ロンドン発書簡Z字第1122号

西江反乱ニュースですべての中国債券が下落しました。ロンドンでは、フランスがこの機に乗じて干渉し、その中から利益をとろうとしているのではないかと心配していますが、イギリス政府は前をみず、行動をとられてからでは、間に合いません。

編集注：現存している文献の中にはダンカンのZ字第1122号以後の書簡が欠けている。

(155) 1898年9月6日 ロンドン発電信新字第490号

香港上海銀行は Hillier に電報で、イギリスとドイツシンジケートは、すでに中国での鉄道投資の事項でそれぞれの範囲を取り決め、かつ連合して行動を起こし、両国政府はすでに同意していると告げました。

日清戦争後の清国賠償金をめぐる争奪戦に果たしたロバート・ハートの役割
—イギリス人総税務司の北京とロンドンの秘密書簡&電報を通じて—

(156) 1898年9月13日 北京発電信新字第675号

私にかわって香港上海銀行に伝えてほしい、小さな出費を惜しんだり、過多の要求をしたりして、牛庄鉄道借款に影響をきたしてはいけない。

(157) 1899年2月3日 ロンドン発電信新字第1149号

牛庄鉄道借款の発行書は今日出されます。うちにイギリス外務省の手紙が一通ふくまれている、それは、道義上、借款の抵当物件となる鉄道は他の国家に転讓してはならないことを示しています。世論はこれにとても満足しています。債券は月曜日に購入申し込みが始まり、現在の市場価格は額面より2%高くなっています。

(158) 1899年4月26日 ロンドン発電信新字第484号

タイムズ紙の上海からの電報によりますと、総税務司は5、6年以内に厘金管理を緩和するだろうとし、債券をもっている人のパニックを引き起こしております。

(159) 1899年4月29日 北京発電信新字第667号

厘金管理の緩和はすでに公使館と香港上海銀行の同意を得ていて、債券を持っている人は、慌てる必要はない。